銀河戦国群雄伝 23

ライ

真鍋譲治

Dengeki Comics EX

DE

EX

銀河戦国群雄伝ライ

23

真鍋譲治

DE-5-23

発行
メディアワークス

ISBN4-8402-1495-6

C0979 ¥930E

9784840214957

1920979009301

発行●メディアワークス

定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

RAI

BY JOJI MANABE

23

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITER
KATSUO ANDO

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
TOSHIKI MORISHITA
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢、五丈軍先鋒として南天に雪崩れ込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝、座王都に一番乗りを果たし、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、骸羅のクーデター時には、南京楼の太守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を軍師として迎え、また、皇室の娘、紫紋を妻に娶ると、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、死闘を展開、ついに金洲海にて恩師、狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、偽帝、骸羅をも打ち倒し、全五丈を平らげる。その後、玄偉、西羌王ら反竜我派の反乱を鎮圧する中、五丈王に即位し、尊号を竜王と称する。西羌と和を結び、着々と国内体制を固める雷に対し、智の正宗とそれに呼応するかの如く北伐を決意した、南天王、羅候率いる南天軍が、ほぼ同時に大挙して五丈領土に侵入、国力が整わない五丈は最大の危機を迎える。雷は軍師、師真の戦力集中による各個撃破の策を取り、まずは開彭沖にて正宗軍と激突、最後には単艦同士での一騎打ちにより、ついに宿敵正宗を倒した。雷は返す刀で、南天軍主力を六紋海におびき寄せ、天文を利用した戦法で壊滅的な打撃を与える。歴史の分岐点となったこの戦いで雷の覇者への道が確定した。

【大覚屋師真】だいがくやしし

南京楼の豪商、大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れて甚だ評判が悪い。だがその知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。並みいる諸侯からの度重なる招きをすべて固持し、時を待つが紫紋に横恋慕したことによる縁で雷に出会い、以来その才覚を余すことなく発揮、雷の覇業の最大の立役者である。六紋海の戦いでは雄大な戦略を立て、敵軍師、姜子昌との決戦に挑み、これを撃ち破る。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の女性故に、辛い運命に弄ばれる悲劇の女である。父親を雷に殺された後、五丈に身柄を引き渡され、恩賞として仇でもある雷の許に預けられた。だが、雷とはそれを乗り越え、深い愛情を寄せ合うことになる。正妻となってからは、戦場に赴く雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

雷の主君であった比紀弾正の娘。勝ち気な性格で、雷との絡みで紫紋とはよく対立し、反乱の罪を被せて紫紋を殺そうとしたこともあった。弾正の死後、国政を乗っ取るが骸羅に国を追われ、雷の許に転がり込み、第二婦人として、雷の第一子である梵天丸をもうける。一時険悪であった紫紋とも和解し、子育てに励んでいる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の兵卒時代からの戦友。かつては高僧にも仕える身分であったが、大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷とは戦場を共にし、また、雷の密命を帯び、暴政下の武王都より麗羅を救出、無事雷の許に送り届けた。六紋海の決戦においては一軍を率いて奮戦し、雷を守る。

【孟閣】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として、経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その覇業に重きをなす。六紋海の戦いでは、息子の孟起と共に雷の身を案じ、奮戦する。

【三楽斎】さんらくさい

五丈の尚書令。師真に次ぐ、実質、五丈家臣団ナンバー2である。極めて有能な能吏派軍人であり、弁舌の才を持って雷を補佐し、外交、内政面においてその優れた才能を、遺憾無く発揮する。

【鐘士元】しょうしげん

五丈軍の勇将。雷の師団長以来の宿将で、その勇猛果敢さで、常に先鋒を受け持ったが、師真のような新参者とは反りが合わず、対立した。だが次第にその知謀を認め、その指揮下に入り活躍する。

【姚文】ようぶん

五丈軍の勇将。鐘士元らと共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には良く服し、戦功を重ね、雷の覇業の一翼をなす。よく書

をし、武勇一辺倒ではない男でもある。

【項武】こうぶ

雷の旗揚げ時からの宿将であった項焉の息子で、八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。その武勇を買われ常に先鋒を任される。六紋海では、星海に散った項焉の仇を討つべく奮戦する。

【林則嘉】りんそくか

五丈軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされなかったが、南京楼城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなすようになる。天才肌の師真に対して、地味ながら、その誠実さをもって数々の献策をし、雷の覇業を助ける。特に金州海の戦いに於いて、焦る雷を勇気を持って諫めたことは、その後の雷の成長を考えると特筆に値する。

【如海】じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ、幕下に入る。

【孟起】もうき

孟閣の息子で五丈軍の第二世代を代表する青年武将。六紋海の戦いでは、遊軍を率いて八面六臂の活躍をする。

【装伯】そうはく

造船総監装民の甥。五丈軍の技術者の要の一人であり、装民の作った巨砲を自走砲艦として生まれ変わらせた。

【呂朱】りょしゅ

五丈軍の中堅武将。雷の挙兵に応じ、骸羅派の大守を殺して雷の許に馳せ参じた功により、奮威将軍に進んだ。

【鐘才】しょうさい

郡役所の下級官吏から鎮南将軍にまで登り詰めた苦労人。六紋海の戦いでは、後方遮断の任を任される。

【公叔】こうしゅく

如晦と並び東河の七賢人と呼ばれた賢士。雷に召され、軍政司等を歴任。外交手腕を買われて西羌との微妙な関係の維持を一任される。

【大覚屋英真】だいがくやえいしん

師真の弟で豪商大覚屋を擁しての南京楼産業界の若きリーダーである。その立場から雷の良き経済アドバイザーとして活躍、骸羅暴政後の五丈経済再建に大きく貢献するが、長引く戦乱に民が疲弊しきっていることを悟り、早期講和の道を模索し始める。

【羅候】らこう

南天王。父、羅鶴の死後、兵権を引き継ぐ。当初は南天の大国、智に従属していたが徐々にその勢力を広げ南蛮国王女、邑峻を娶りその地盤を強固なものにする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立て正宗を失脚させる。南蛮王の死去後、その王位も継ぎ、練、南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。その後、正宗が復権すると見るや、素早く智領土の併合を謀り、正宗と智王を遙か、領土外に追いやる。次いで、天下統一の最後の障害である五丈に、空前の大軍団で侵攻するが、六紋海で完敗する。

【姜子昌】きょうししょう

練国きっての名将。羅候の竹馬の友である。若くして、練軍の大都督に就き、羅候を補佐し、練国の発展に尽力する。正宗による銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが、誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。この度の北伐では、総大将に就任、師真と対決する。

【蹄虎】ていほう

南天軍の若き武将で知勇に秀で姜子昌の片腕として活躍する。また、雷の許にお忍びで潜入した羅候のお目付役と、苦労も耐えない。

【龍緒】りゅうしょ

夏候獣と共に、琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。実質的には練の宰相職にあり、法令、兵法、いずれにも造詣が深く、北伐にも帯同はしているものの、数多い将官の中にあっては、慎重派である。

【邑峻】ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の許に輿入れ、

百人もの女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、意外にも花嫁修行には熱心だった。とにかく羅候が好きで好きでたまらないという感じで、それ故に城内を餃子だらけにしてしまうなどいろんな騒動も起こす。羅候の本格的な北伐にも同行し、身重の身体でありながら、大鉈を振り回しての大奮闘した。

【金角・銀角】きんかく・ぎんかく

南天軍の兄弟武将。姜子昌の配下で六紋海の戦いで辛うじて生き残る。その後智への侵攻に失敗。その彼らの許に五丈の使者が…。

【神楽】かぐら

南天国の女武将。白象戦車隊を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。姜子昌にほのかな恋心を抱くが、六紋海の戦いで、善戦空しく、一度は破った項武に捕らえられ、そのまま彼の妻になる。それでも姜子昌への未練が絶ち難く、彼への想いを遂げようと、餃子づくりに精を出す。

【飛竜】ひりゅう

正宗の側近。姜子昌と共に兵学を学んだ仲ではあるが、互いに違う主君に仕えることによって、敵味方に分かれてしまう。正宗から絶大な信頼を受け、その死後、文字通り粉骨砕身、智国復興に励むが、五丈の進駐を阻めず。

【華玉】かぎょく

玄偉の腹心。李張導師の高弟で、その秘められた力で玄偉の暗躍を助ける。偽帝討伐時には師真と功を争うが、すでのところで破れる。その後も刺客の梨扇を使い、雷暗殺を謀るが失敗。玄偉の滅亡と共に雷に降り、幕閣に迎えられる。

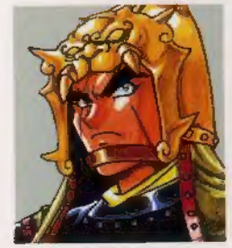
【李張】りちょう

弾正の元軍師。その弟子には華玉、骸延など知謀の士が多い。銀河の覇者の出現を予見している。

【蘭々】らんらん

華玉の妹。共に李張に学ぶ。道師としてその能力は未知数だが、紫紋の良き友でもある。玉の輿を狙ったりするなど、なかなかのしたたか者である。

【秦宮括】しんていかつ



銀河の外周に位置する西羌国の統治者。雷の人間の大きさに感じ入った彼は雷との共存を謀るが…。

まさか
こんな事態に
なろうとは…
公叔は
何が不満だったのじゃ…
しかし
いかにして
西羌軍を
防ぐかだが…

西羌の
秦宮括といえば
項武将軍と
互角に撃ち合った
強の者
それが大軍を
率いているのじゃ
守備隊だけでは
守りきれぬ
ここは何とか
甘い条件を出して
矛を収めさせるのが
一番じゃ！
それは
ならぬ！
元々
西羌の輩は
信用ならぬ！
そのような
対処では
つけ上がり
かえって危険じゃ！

なれば
戦うと申されるのか！
それこそ
梵天丸様を
はじめ
竜王様の
ご家族にまで
危険が及び
ますぞ！
ここはいっそ
遷都を行い
敵の矛先を
躱してみれば？
いや遷都を騒々しく
行えばかえって民心が
動揺し
それこそ
国家の屋台骨を
揺るがしますぞ！

三楽斎様は
いかがお考えですか!!
そうです！
竜王様より
軍政両面の
大権をお預かりした身
三楽斎様の
ご決断に
かかっております
う…！

そうは
いわれても…
何かよい
手だてはと…
ご決断を!!
三楽斎様
ご決断を!!
三楽斎様！
ご決断を!!

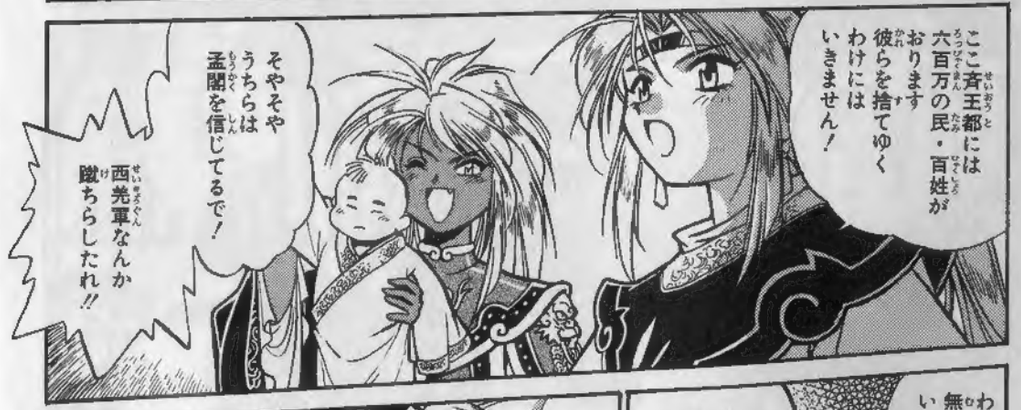
静まれいっ!!
おおっ 孟閣将軍!
まったく おぬしら文官は 騒ぐことしか できぬな!
西光のやつらを 五丈内に 入れてしまったのも 公叔の裏切りに 気付かなかったのも 我々皆の 過ちじゃ!
ここで我々が 後始末を つけねば 竜王様に申し訳が 立たぬのが わからんのか!

なれば 大将軍の 考えは…
無論 戦う!!
戦う!?
将軍! 貴殿の 武勇は もちろん 認めて おりますが ここには 守備兵が 十万しか おらんのですぞ
戦とは 兵の数で 決まるもんでは ない! 用い方が 肝心なのだ!!
そりゃ そうだが…
なれば 竜王様に この件を ご報告し 一軍を帰して もらいましょう
そして内と外からで 攻めるのが 一番ですぞ

いや竜王様には伝えぬ方がよい！
し…しかし将軍！
我々が守っているからこそ陛下は遠い南天の果てまで安心して遠征されたのだ！
今 まさに羅候の息の根を止めようとする その時にいらぬ迷惑はおかけできぬ!!
それとも何か！おまえはこの俺がもうろくしたとでもいうのか!?
いえいえ滅相もない！
申しあげます 大将軍の力量はよくよくわかっておりますが万全の策として梵天丸様と紫紋・麗夫人だけには安全な所にお移りなられるよう申されてはいかがでしょう
うむ…

万が一のことがあってはなりませぬ…！
ぜひ!!
王内府殿の申される通りじゃそうしましょう大将軍！
わかった俺からそう申しあげよう
その必要はありません！
お話は聞かせていただきました！
奥方様!!
麗夫人！

私達のことを
心配してくれるのは
ありがたいのですが
夫の出征中
留守の都を
守るのは
妻の役目でも
ございます！
しかし…


ここ斉王都には
六百万の民・百姓が
おります
彼らを捨てゆく
わけには
いきません！
そやそや
うちらは
孟閣を信じてるで！
西羌軍なんか
蹴ちらしたれ!!

わかりました
無理強いは
いたしませぬ
どうか
心安んじて
我が勝報を
お待ちください
はい！
気張りや！
孟閣!!

よし！
衆議一決!!
出陣だ!!

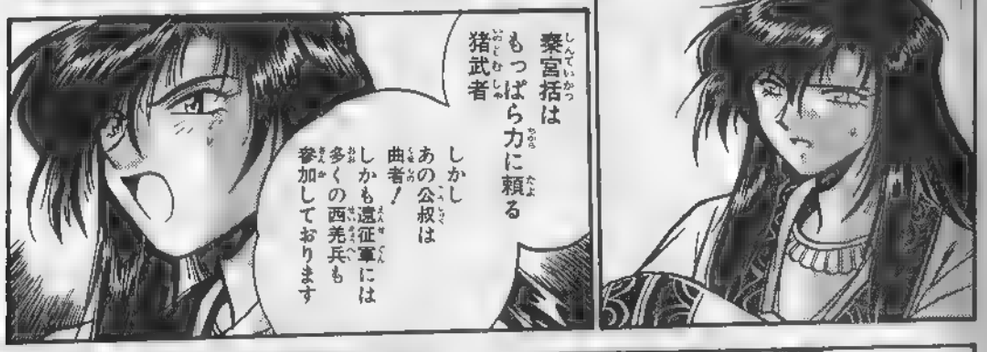
三楽斎！
後は任せるぞ!!
孟閣殿！

決して
功を焦っては
なりませぬぞ！
この戦
慎重さが
肝要です！
ふ！
新兵に
いうような
ことぬかすな！

ゴゴゴゴゴゴ

……
三楽斎様！
おお
華玉殿か

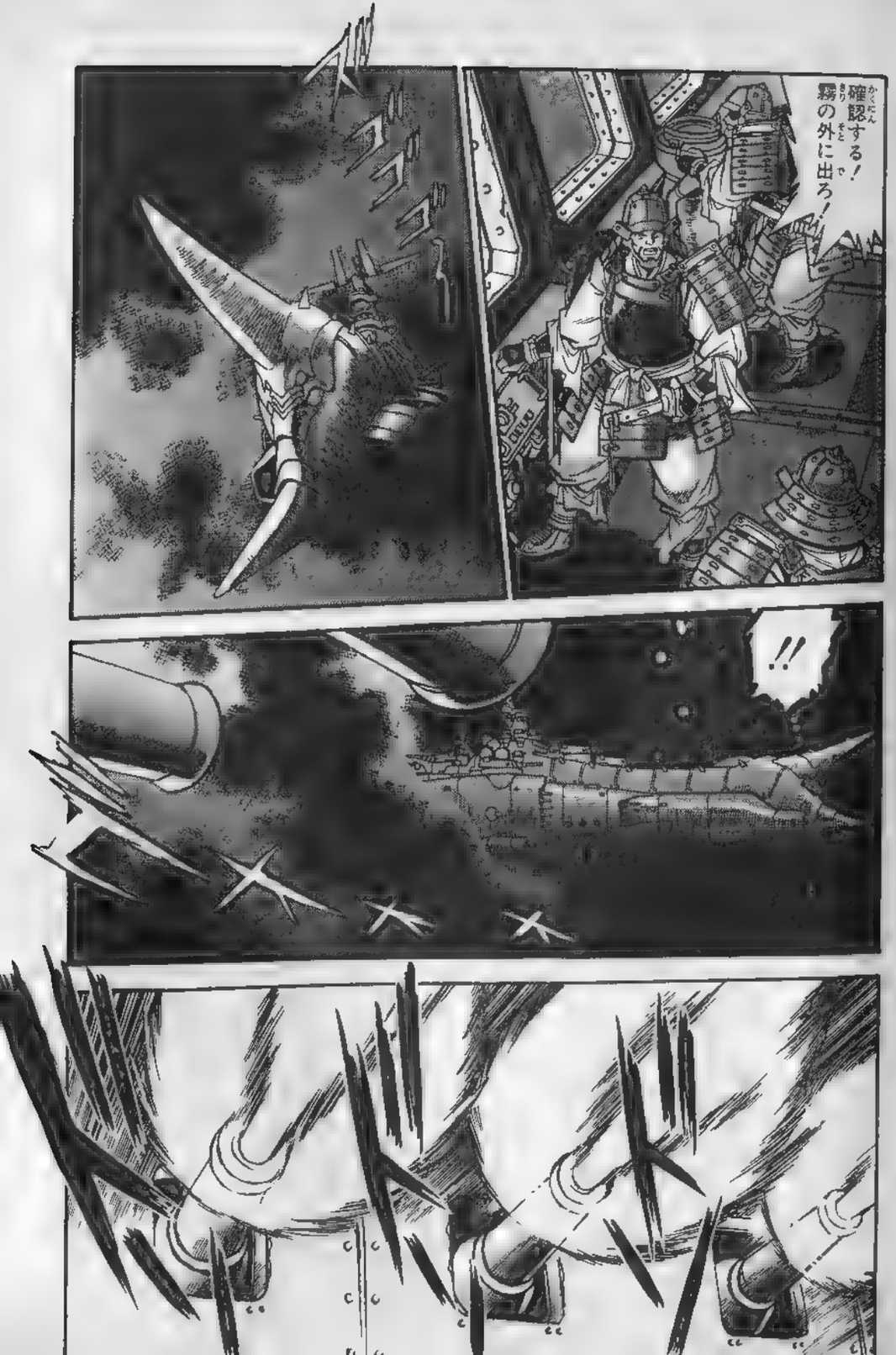
孟閣将軍の
手前
あえて強くは
申しあげません
でしたが
やはり竜王様に
お知らせ
すべきと思います
わしも
そう思う
だが陛下に
ご心配をかけたくない
という将軍の
気持ちも
もっともじゃでのう

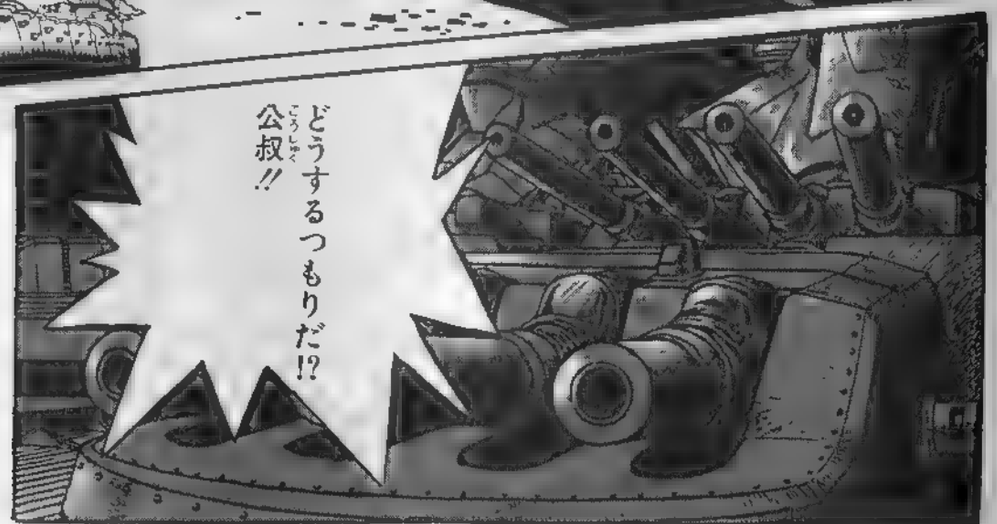

秦宮括は
もっぱら力に頼る
猪武者
しかし
あの公叔は
曲者！
しかも遠征軍には
多くの西羌兵も
参加しております

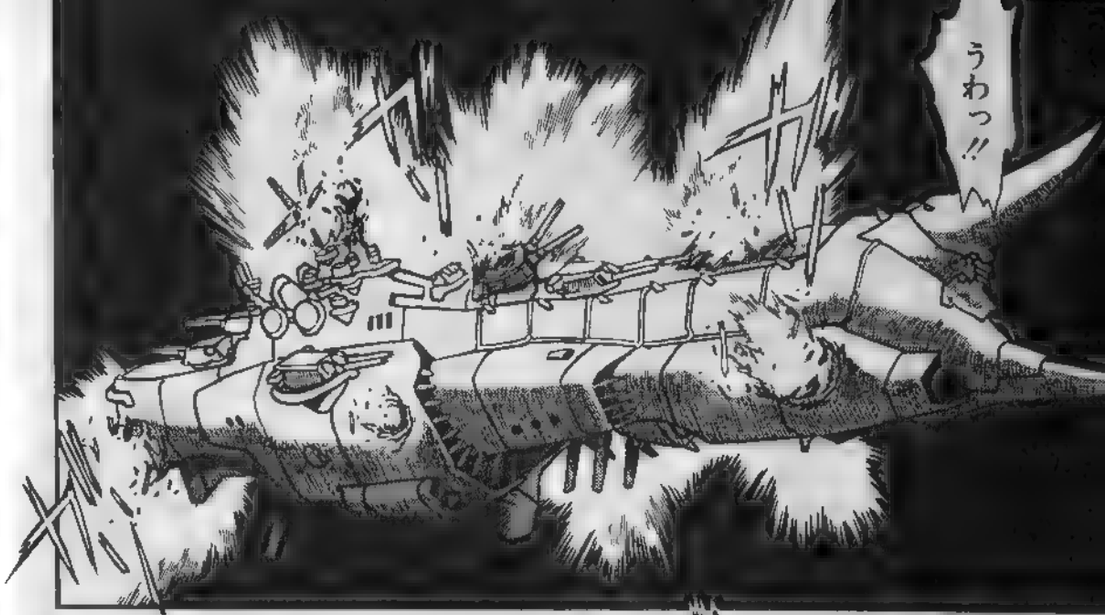
どうでしょう
陛下ではなく
丞相にお知らせ
すれば！
師真様なら
状況を考慮して
うまく取り計らって
いただけるかと…
うむ
そうじゃ！
丞相のお知恵を
借りよう！
さっそく
手紙を
したためる！

こうして
三楽斎より
危急を知らせる
書信が師真の許に
送られた

よいか！
最も速い
伝令船を
使え!!
はっ!!
一刻も早く
丞相に
お届けするのだ!!
霧が深い…
捜索には
やっかいだな
見張りを
もっと出せ！
全周捜索!!
聴音機に
無数の
エンジン音が!!
方位一七〇より
高速移動中!!


確認する！
霧の外に出ろ！
!!


どうするつもりだ!?
公叔(こうしゅく)!!


うわっ!!

南天軍は敗れ
おまえの謀は
全て露見した！
南天と西羌で
五丈を挟撃する策は
おしまいだぞ!!
五丈には
正宗や羅候の
大軍をもなんなく
撃ち破った
軍師が付いている
まともに
やり合っては
勝ち目はない…!!
おまえのような
腐れ儒者の口車に
乗せられて
西羌を破滅に
導いたとあっては
この俺は笑い者だ！
兄上
いかがなされます!?
しれたこと!!
ただちに
西羌にもどる!!
そしてこの男を
竜王に渡して
わびるのだ!!

そもそも
俺は竜王と
争う気など
なかった…！
こやつを
縛り上げろ!!
それをこの男が
言葉巧みに
俺や母上を
たぶらかしたのだ！
このうつけが!!
な…
何いっ!!
きさま
ここで首を
刎ねられたいか!!
わしが
おまえに五丈を
背くように
仕向けたのは
おまえがもっと
大きな男だと
思ったからだ！
それを何じゃ！
ここまで事を
進めながら
こそこそと逃げ帰り
わびを入れるじゃと！
所詮はおまえは
目先だけしか
見えぬ青二才じゃ！
ともに語るに
足りぬわ!!
ぬぬぬ！
いわせて
おけば!!
そこへなおれ!!

ふふ…
わしは命など
惜しくはないが
竜王との約束は
裏いぞ！

おぬし…
何を竜王と
約束した？
同盟とは
どういうこと
なのじゃ？
そして
それを破ると
いうことが
どういうことを
意味するのか
わかっておるのか？

竜王は
おぬしを信じ
全軍を挙げて
南天を攻めた
おぬしはその間に
都を攻めるべく
軍をここまで
進めてきた！
この裏切り行為…
わしの首一つで
済む問題か…？

竜王との約束…!!

宮括殿
わしはそなたを
揺るぎない
天下人に
しようと知恵を
働かせておるのじゃ
だが宮括殿に
その気がないならば
わしの生きていく
場所はない
死ぬまでじゃ！
殺すがよい…！

放してやれ！
は…
ははっ!!
ふう…
理解して
いただけたよう
じゃな
しかし状況は
悪化しておるのには
違いあるまい…！
どうすれば
よい？
左様
事ここに
至っては…

力攻めしか
ありますまい…!!

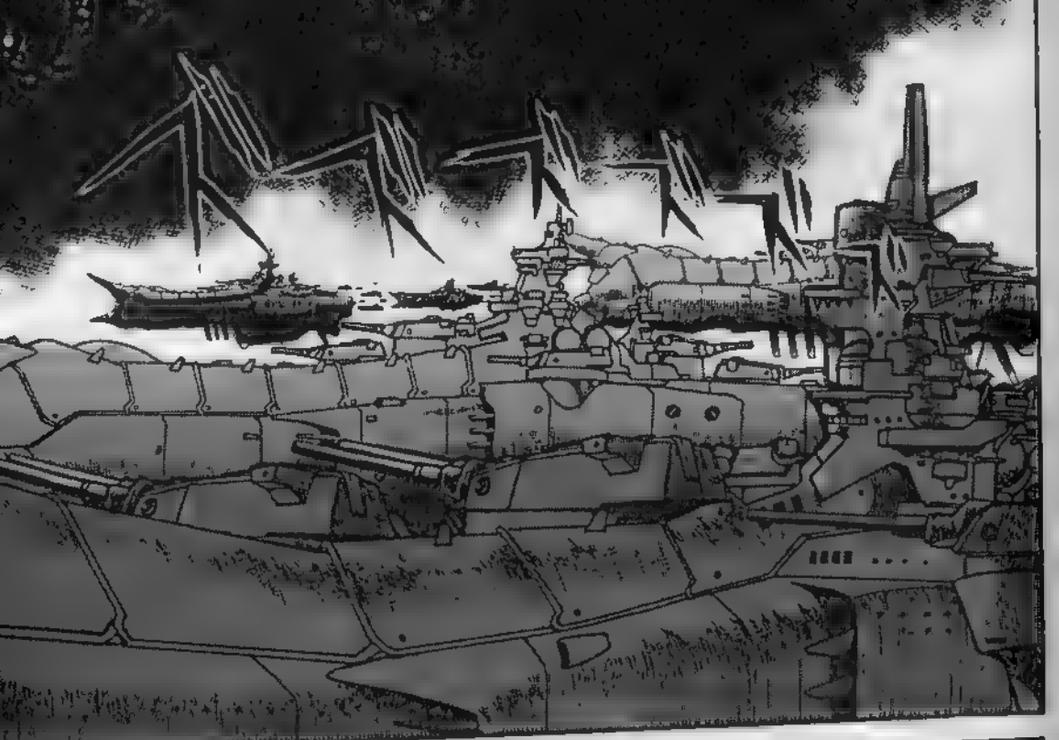
事が発覚した
とはいえ
我々には三百万の
軍勢があり
加えて帝虎級戦艦が
三隻もあります
この兵力で
一気に斉王都を
落とします!
斉王都の守備は?
十万を切るか
切らないか…
それは
確かか?
首都だぞ

このわずか十万の
守備兵力は
護衛を連れ歩かない
竜王の性格を
反映しておりましてな
守備隊に
囲まれるのを
あの男は
嫌がるのです
指揮は
大将軍の孟闇
だが
やつはもう年じゃ
恐れることは
ありますまい

だが都を
落としても
とって返した
五丈軍と
対決することに
なる…!
今度は十万の
守備隊とは
わけが違うぞ!
人質を
お取りなさい

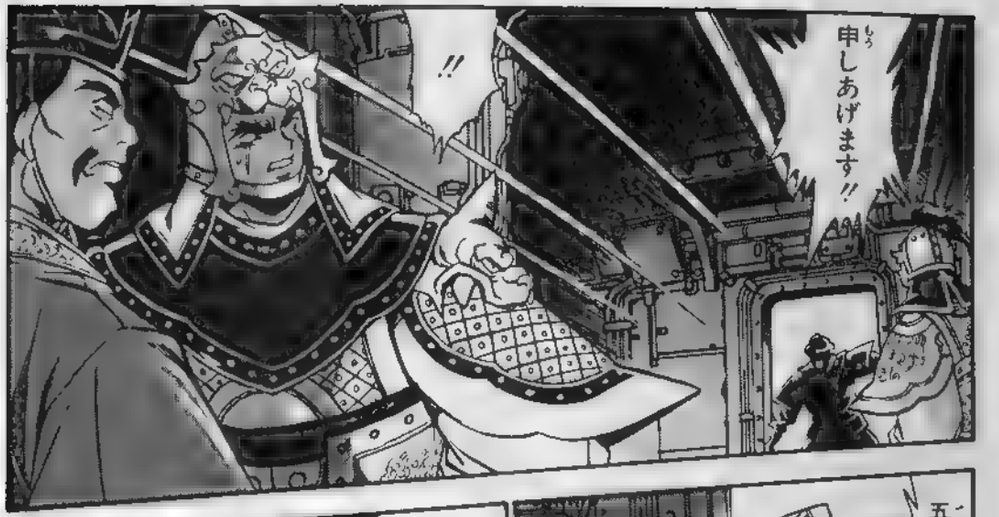
な…!?
人質だと!?
そう
竜王が最も
大事にしてる者…
それは
紫夫人
臨夫人…

そして
何よりもまず…
跡継ぎ
梵天丸君を…



孟闇将軍！
西羌軍です！
三百万は
下らないかと…
大軍です!!
大将旗は
だれのだ!?

中央本陣に
秦宮括の
特大の大将旗が
翻っております!!
ふん！
やはり奴か…
親父は玄偉に
倅は公叔にか？
尻軽親子めが!!


申しあげます!!
!!

五丈の軍勢…
前方より
接近してきます!!
何いっ!?

ゴゴゴゴゴゴ

柔軟な兵力の
活用が
できちゃいねえ!!
やつらにまだまだ
近代会戦の基本が
身に付いてねえんだ!
骸羅・正宗・羅候と
撃ち破った五丈の
強さを見せつけてやる!!

全軍
我に続けーっ!!
突撃だ!!

敵は大軍
味方は十万…!
しかもやつらは
帝虎級戦艦まで
保有しておりますぞ!!
いかが
いたしますか!?
あわてるな!
連中は
南天とつるんで
帝虎級戦艦を
手に入れはしたが
その使い方が
わかってねぇ!!
あの隊列を
見れば
帝虎級戦艦も
宝の持ち腐れよ!!

見ろ!!

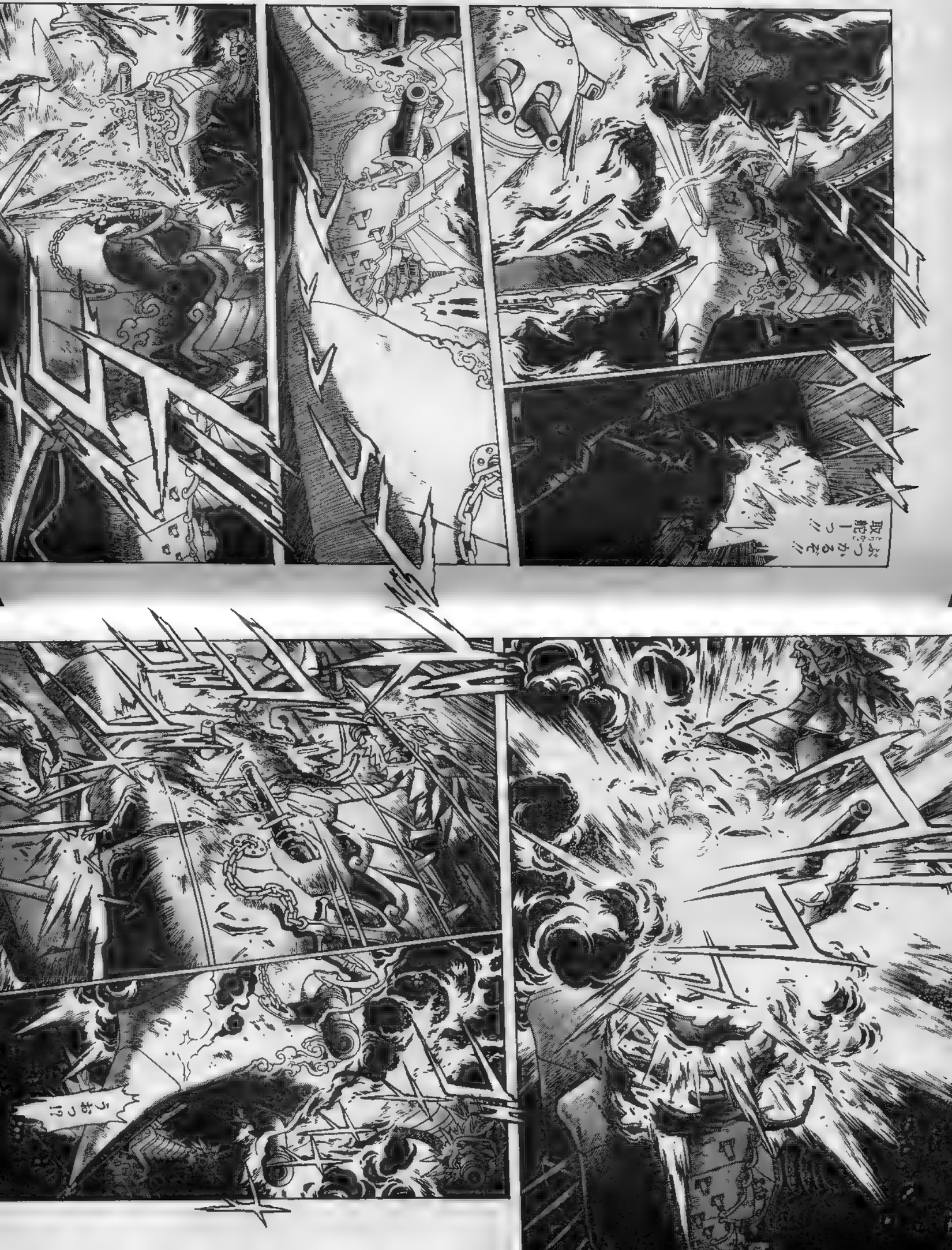
連中は三隻の帝虎を
それぞれ兄弟の旗艦に
している!
その周りを他の戦艦が
取り巻いて
いるだろう!
あれじゃ
帝虎の一個軍団に
匹敵する火力も
十分に発揮できねえ
味方に当たっちまわ!
しかも
味方は帝虎の周りに
円陣を組むことばかりに
気を
取られている!

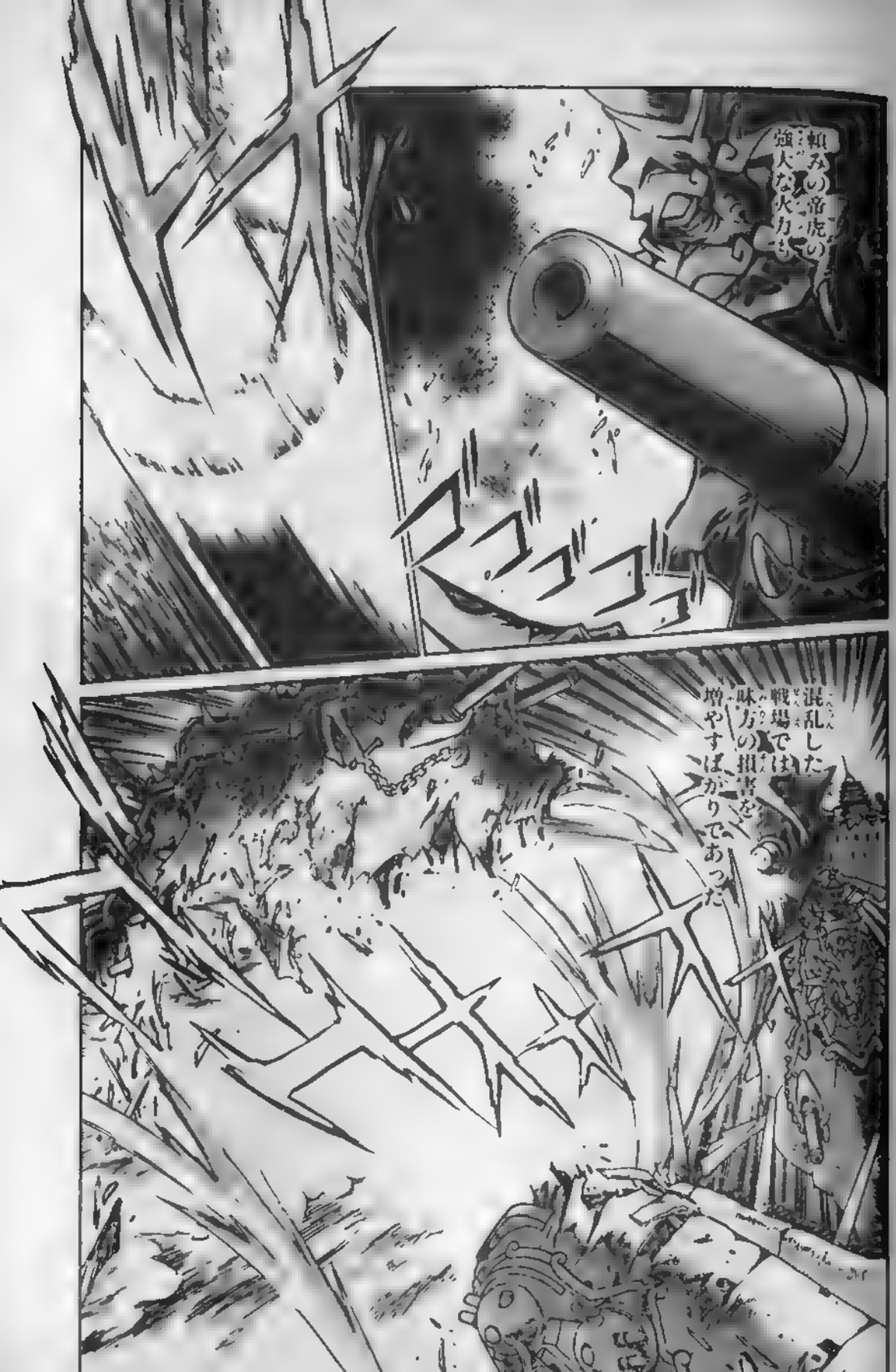
五丈軍
一団となって
突っ込んできます!!
くそうっ
たかが
十万の兵力で…
なめられたもんだ!!
て――っ!!

撃ていっ!!

うわあっ!!
騒ぐな!!
将軍! 敵は全力射撃に入っております!!
応戦しないのですか!!
落ちつけ!! 弱い犬ほどよく吠えるというだろうが!!

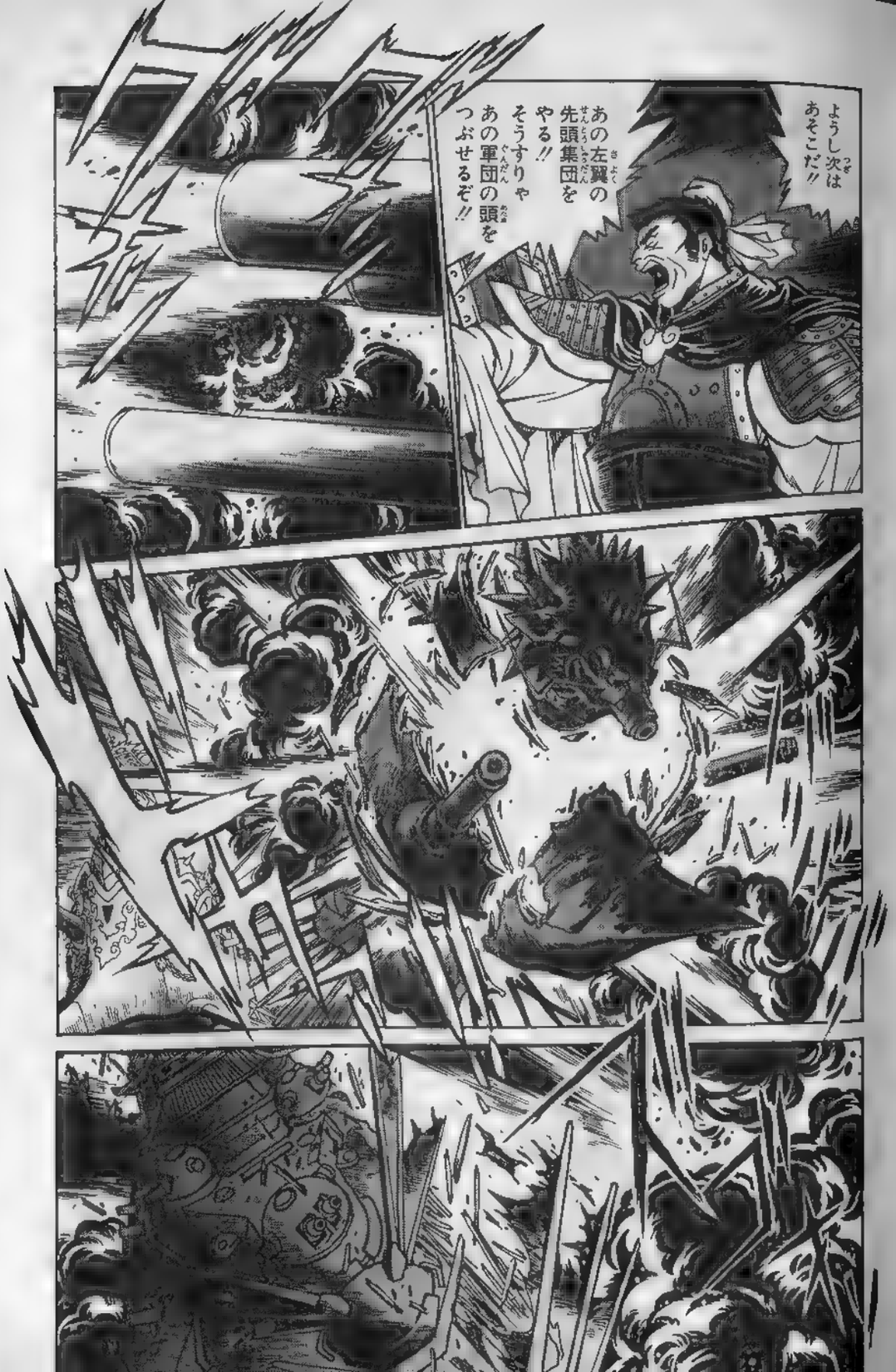
各隊列の先頭艦に距離六千で集中射撃!!
ようい

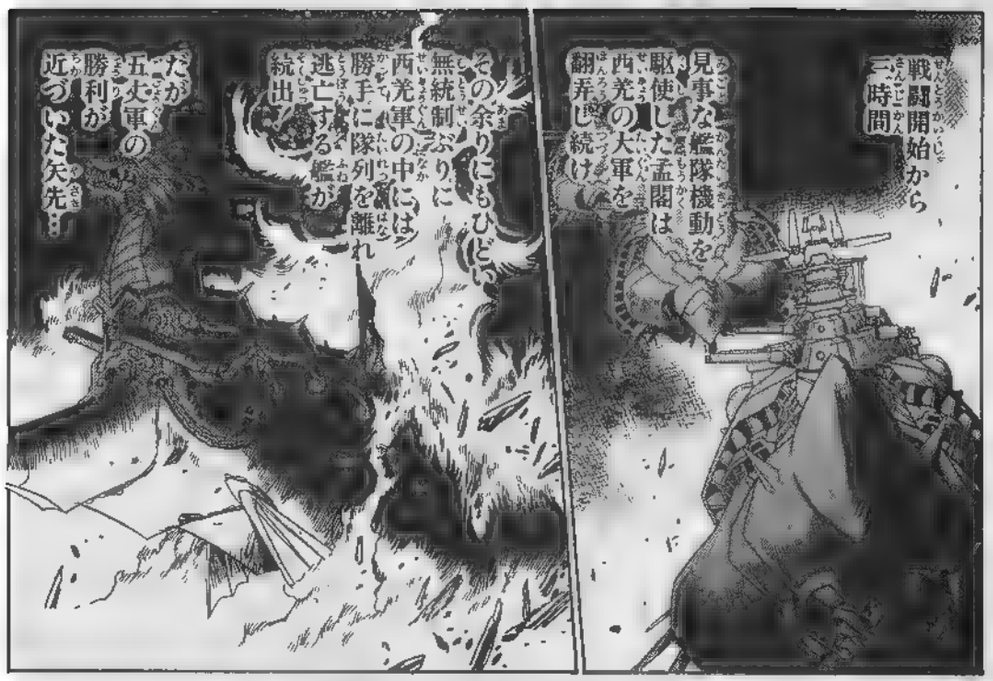

取り戻すのだ！！
ぐしゃ


頼みの帝虎の
強大な火力
ゴゴゴゴ
混乱した
戦場では
味方の損害を
増やすばかりであった

さすがは
猛戦の強者で
孟開であった
真っ向からの
撃ち合いには
応じず
西羌軍の隊列の
起点部分に
集中射撃を
加えたのだった
機動戦において
五丈軍より
一格段に練度の低い
西羌軍は
隊列を乱され
右往左往
指揮を
破壊されろや
進路を見失い
あちらこちらに
衝突を繰り返した

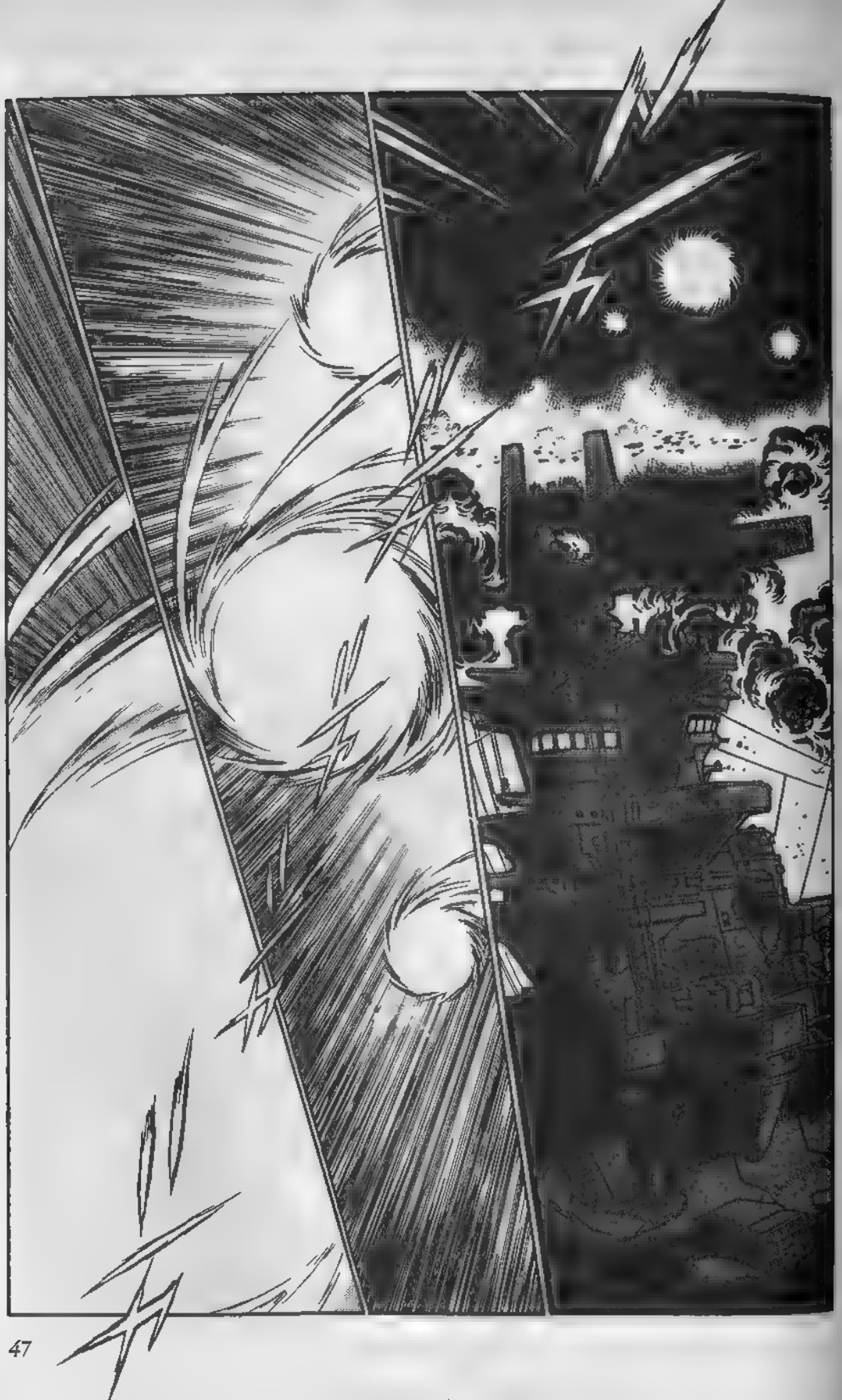
うわっ!!
ええいっ 何をしている!?
たかが 一握りの 軍勢だぞ!!
陣形を 立て直せーっ!!


ようし次は あそこだ!!
あの左翼の 先頭集団を やる!!
そうすりゃ あの軍団の頭を つぶせるぞ!!


戦闘開始から
二時間
見事な艦隊機動を
駆使した孟閣は
西羌の大軍を
翻弄し続け
その余りにもひどい
無統制ぶりに
西羌軍の中には
勝手に隊列を離れ
逃亡する艦が
続出
だが
五丈軍の
勝利が
近づいた矢先…

運命の一弾が
斉王都の運命を
変えたのだった!!

しょ…
将軍!!
!!



どわあっ!!
ぎゃあーっ!!

お待ちください艦長！この回頭は解せませんぞ!!
何？
戦術的に見ても不可解でありますし何よりも敵に横腹をさらしてしまいます！
確かに…！
では孟閻将軍は…!!
恐らく操艦に何らかの支障があるのかも…被弾したのかもしれません！
うむ…よし！信号を揚げよ！旗艦指揮能力損失全艦我に続け！進路そのまま!!
だが遅かった！旗艦に従った艦と番艦に従った艦によって一糸乱れぬ隊列を組んでいた五丈軍団は四分五裂になってしまったのである…!!

運命の一弾は孟閻の旗艦の戦闘艦橋及び司令塔を吹き飛ばした
うぐぐ…
ぐ…
この一撃で艦橋内の人員の大半が死傷した旗艦は
舵輪を操る者もなく大きく弧を描いて左に回頭した
旗艦進路変更!!
よし我々も続け！

しかも…
どうした!?
なぜ舵を
戻さん!!
このままでは
味方の隊列に
突っ込むぞ!!
うっ…!!
これは…
舵手替われ!!
急げーっ!!
大きく左に回頭した
旗艦は一周して
後続部隊の
列中に突入して
いった!
ま…
間に合わんっ!!

五丈の陣形が崩れたぞ!!
今だ押し返せーっ!!
混乱する友軍の中で身動きの取れなかった帝虎級戦艦が味方を押し潰しても第一線に進出
三百万対十万…この圧倒的戦力差を持ちながら孟閣指揮の艦隊連動の妙によって押え込まれていた西羌軍だが
五丈軍の統率された陣形を崩した今その物量を存分に発揮できるようになったのだ

個軍団に匹敵する火力をようやく五丈軍に浴びせたのだ

もはや隊列など
何もなく
西羌軍は軍団共に
一塊となって
津波の如く
五丈軍にぶつかって
行く
五丈軍一隻に対して
二隻 三隻 五隻
十隻と…
艦隊戦では
五丈軍に一歩も
歩も劣っていた
西羌軍だが
艦が噛み合い
戦場が一枚の板と化せば
その物量が物をいう

あああ

孟閣殿…!!
い…いかがなされますか三楽斎様!
もはや敵がこの城内に雪崩れ込むのは時間の問題ですぞ!
むむ…
ここは西羌軍に斉王都を明け渡し都を武王都に移してはいかがか?
ん!?
都や城など問題ではない! 梵天丸様をお守りできるかどうかだ!!
あっ!
おおっ!!

な…
何いっ!!
我が軍が壊滅しただと…!!!
して…西羌軍は…
はっ 現在近海の砲台を攻略中… 斉王都への上陸は必至でございます!
も…孟閣将軍は大将軍はいかがした!!
そ…それが何分敗走の混乱の中… 大将軍の行方はようと知れませぬ…!!

大将軍！
将軍！ ご無事であったか!!
すまん…！ 大きな口を叩いたがこの様だ…!!
死んでいった兵に顔向けできぬ…！
将軍！ 戦の勝ち負けは兵家の常… 今はこれからどうするかを考えましょう…
……
戦うしかあるまい…!!

戦う!?
正気でござるか大将軍！ 兵も艦ももうござらぬぞ！
確かに兵の多くは失った だがまだ弓矢を取って戦える者はおる！
民衆から文武百官をも動員してこの都を守るしかあるまい！
近くの都市にも若干の兵が駐屯しておろう！
それらの軍勢が首都の異変に気付いて兵を送るまで何が何でもこの都を守るのだ！
もし我々がこの都を明け渡せばたちまち南天は勢いを盛り返し竜王様すら危なくなる…！
南天と西光がつるんでいることを忘れてはならん!!
大臣方も武器を取っていただこう！
わ… 我々もでござるか…!!

ええい！
国を任されている
諸大臣なら
この事態がわかって
おろうが!!
急ぎ
家中の者・
一族郎党の男に
武器を持たせ
られい！
わ…わかった
しかし
わしは弓なぞ
射たことがないぞ！
孟閣殿
実はすでに
将軍のお怒りは
覚悟の上で
丞相に使者を出し
援軍を
要請しております
感謝するぜ
三楽斎…！
守る兵士には
何よりの言葉だ!!

よいか！
まもなく
竜王様の援軍が
来る!!
それまで
何としてでも
踏んばるのだ!!
おまえ達は
北門を固めよ！
すぐに増援を
出す!!
もっと
砲弾を集めろ!!
火砲隊は
間隔を大きく
開けて
配置につけ!!

……

守りきれるでしょうか…

苦しい戦いにはなるであろうな…

だが何としても守りきらねばならん！

我々が一日でも長く守り抜くことで大局は五丈に有利に動くのだ…！

そのためにもどんなに辛くても歯を食いしばって耐え抜く…！それしかあるまい!!

はい城兵や領民もそれをよく心得ています

ゴゴゴゴゴゴ

宮括様

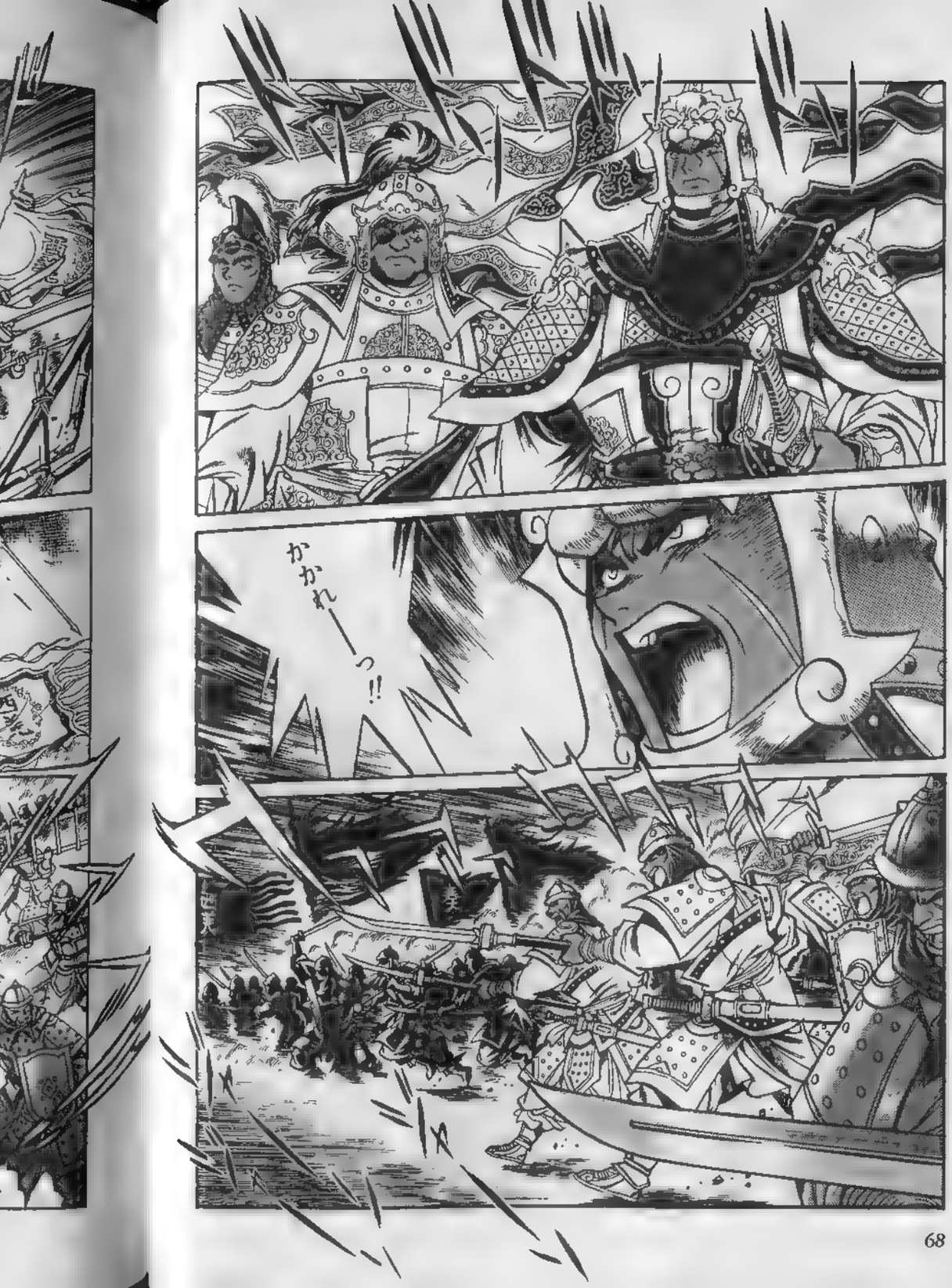
しっかりやりなされ！

天命は自らの手で引き込むものですぞ!!

天命か…

ヒュルルルル

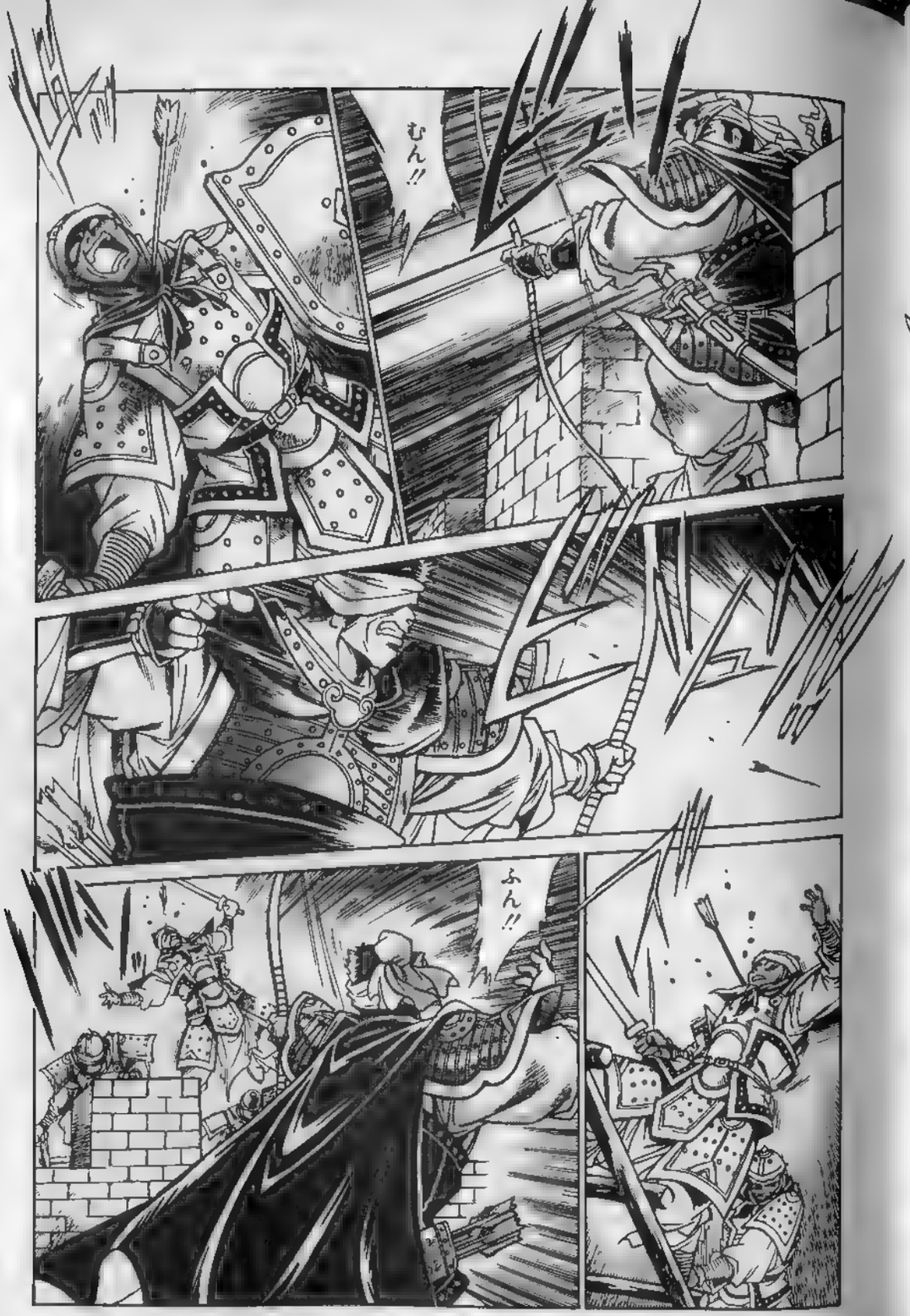
もう
来たか…!!
ドオオン


かかれ――っ!!

わあああ

撃ていっ!!
ええい ひるむな! 持ち場を離れるんじゃない!!

ぎゃあっ!!


よいか！
決して竜王の奥方と跡継ぎにケガをさせてはならんぞ!!
必ず無事に俺の許へ連れてくるのだ!!

むん!!
ふん!!

連日
怒濤のように
攻め寄せる西羌軍

だが
孟閣率いる
守備兵は
よく防戦につとめた

少ない兵力を
効率的に使い

城壁に取り付く
敵兵を
火砲に弓矢
石や大木を
落として確実に
倒していった

十日過ぎても
城は落ちず
城壁の堀には
攻城側の死体が
堆く積まれていった

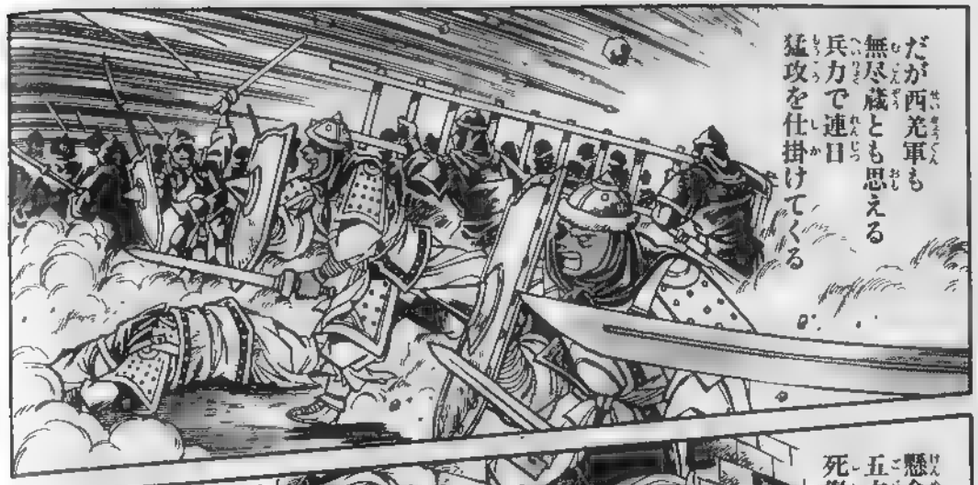
三紫喬も
勇躍した

領民を総動員して
砲撃による
城壁の破損を
補修し

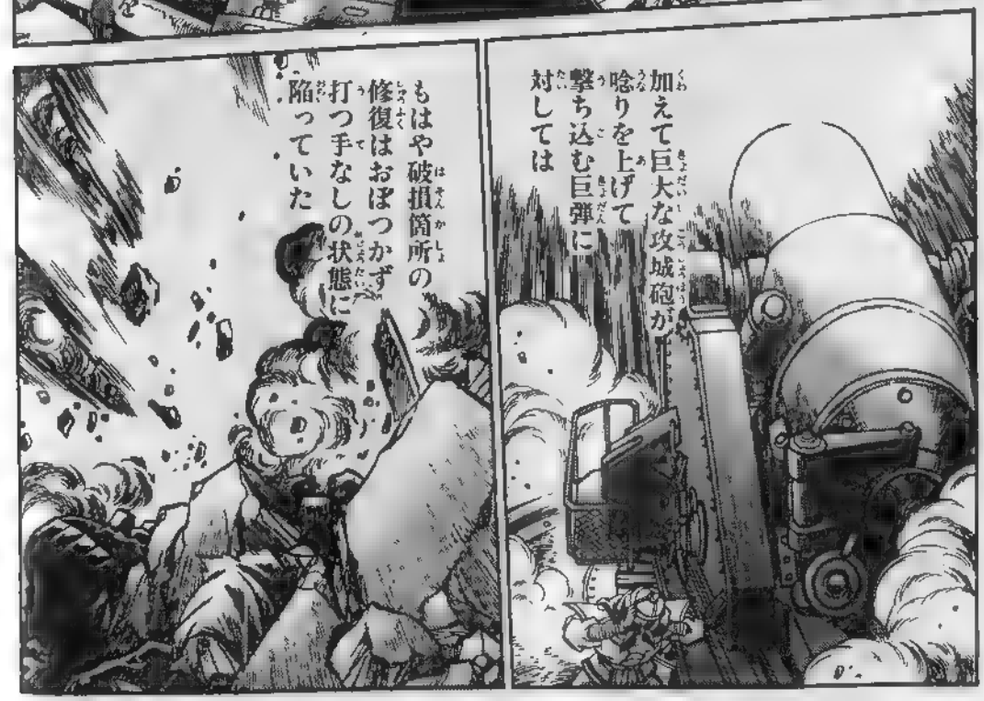
また領民もよく
それに応えた

それには
度々宮廷外にて
親しく声をかける
紫紋の存在が
大きかったのであろう

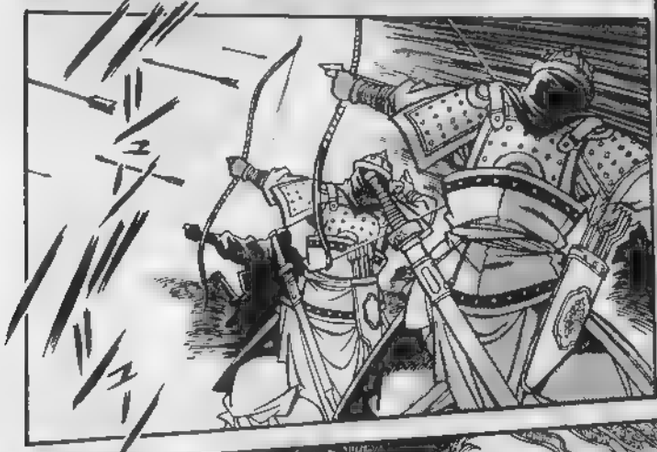
斉王邵は正に
官民一体となって
西羌軍に
対抗したのだった


だが西羌軍も
無尽蔵とも思える
兵力で連日
猛攻を仕掛けてくる

懸命に防戦する
五丈軍にも
死傷者が続出
兵力の消耗は
全周二十四キロの
城壁を守り抜くことを
一層困難にしていた


加えて巨大な攻城砲が
唸りを上げて
撃ち込む巨弾に
対しては
もはや破損箇所の
修復はおぼつかず
打つ手なしの状態に
陥っていた

ええい！
城はもはや
落ちたも同然だ!!
押せーっ
押しまくれーっ!!



攻城戦が始まって
半月…
秦宮括は
連日の猛砲火で
破損の著しい
城壁に対して
自ら陣頭指揮を
取っての総攻撃を
加えた

奥方様！
梨扇
いかがです
戦況は…!?
南門は
孟闇様が懸命に
支えてらっしゃいますが
他の城門は
すでに破られ
敵兵が城内に
侵入しています!!
孟闇様！
あれを!!
!!
孟闇将軍！
兵を鎮めよ!!
これ以上の
抵抗は無駄だ!!

きゃあああっ!!
お急ぎください！
ここは危険です!!
泣くんやないで
梵天丸！
泣くんや
ない！
雷が…
おまえの
お父ちゃんが
絶対助けに
来てくれるんや
から…!!

秦宮括…!!
きさまぁ～っ!!
今開城せねば
領民・城兵とも
皆殺しを覚悟して
もらうことになるぞ!!
それでもよいのか!!!
!!
いいか
秦宮括
ようく
聞けいっ!!
きさまらのように
信義をわきまえぬ
輩にはわからんかも
しれんがな!!
この五丈に
首刎ねられる
将こそおれ
降伏する将など
誰一人も
おらぬわ!!

西光軍の力押しが
次第に功を奏し
ついに城壁の
一角が破られ

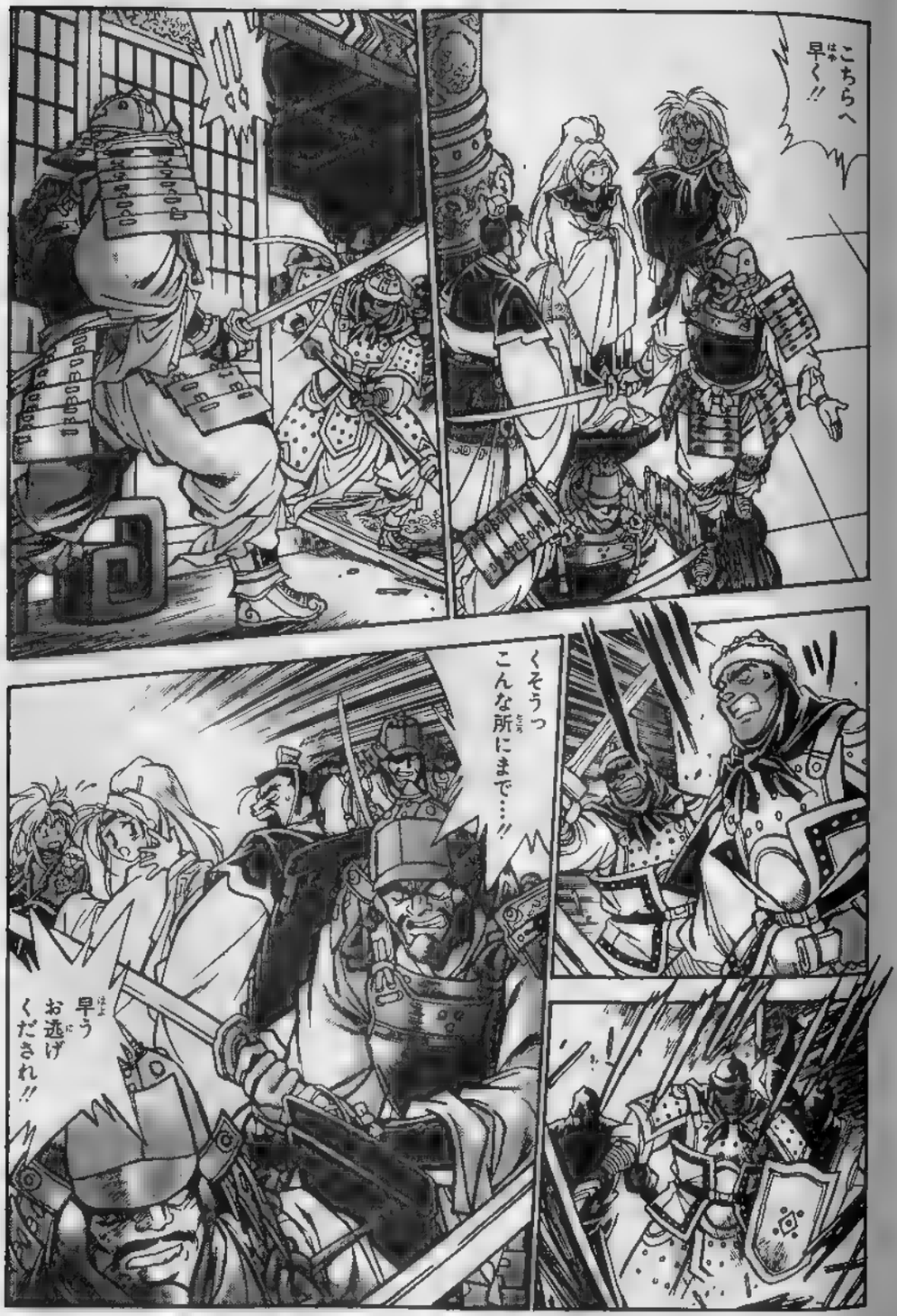
城壁上の
あちらこちらで
激しい白兵戦が
戦われた

うわあっ!!

ええい
防げ
防げーっ!!
命を
惜しむなーっ!!

奥方様!!
麗羅様!!
どこに
おられまするか!!

こちらです
三楽斎殿！
おおっ
ご無事で
ございましたか！
心配かけました
皆変わり
ありません
んなことより
どないなってるんや
三楽斎！
やばいんか!?
はっ
まことに申し訳
ありません：
残念ながら
落城も時間の
問題かと
何やねん
あかんのか!!
守りきられ
へんのか!!
ご安心あれ！
梵天丸様と
お二方は
この三楽斎が
命を賭けても
守りますよって…!!
とにかく
ここは
危険です
敵兵が
迫っております
ええ
急ぎましょう


こちらへ
早く!!
くそうっ
こんな所にまで…!!
早う
お逃げ
くだされ!!

何だよ これ!?
いったい 何が起きてんのさ!!
!!
うおおっ!?
何だ あのでかいのは!? 象か!?
何してやがんだよ てめえら…!!

おおお!!
ぎゃあ!!
内府殿(ないふどの)!!

どけどけ
どけ――っ!!!

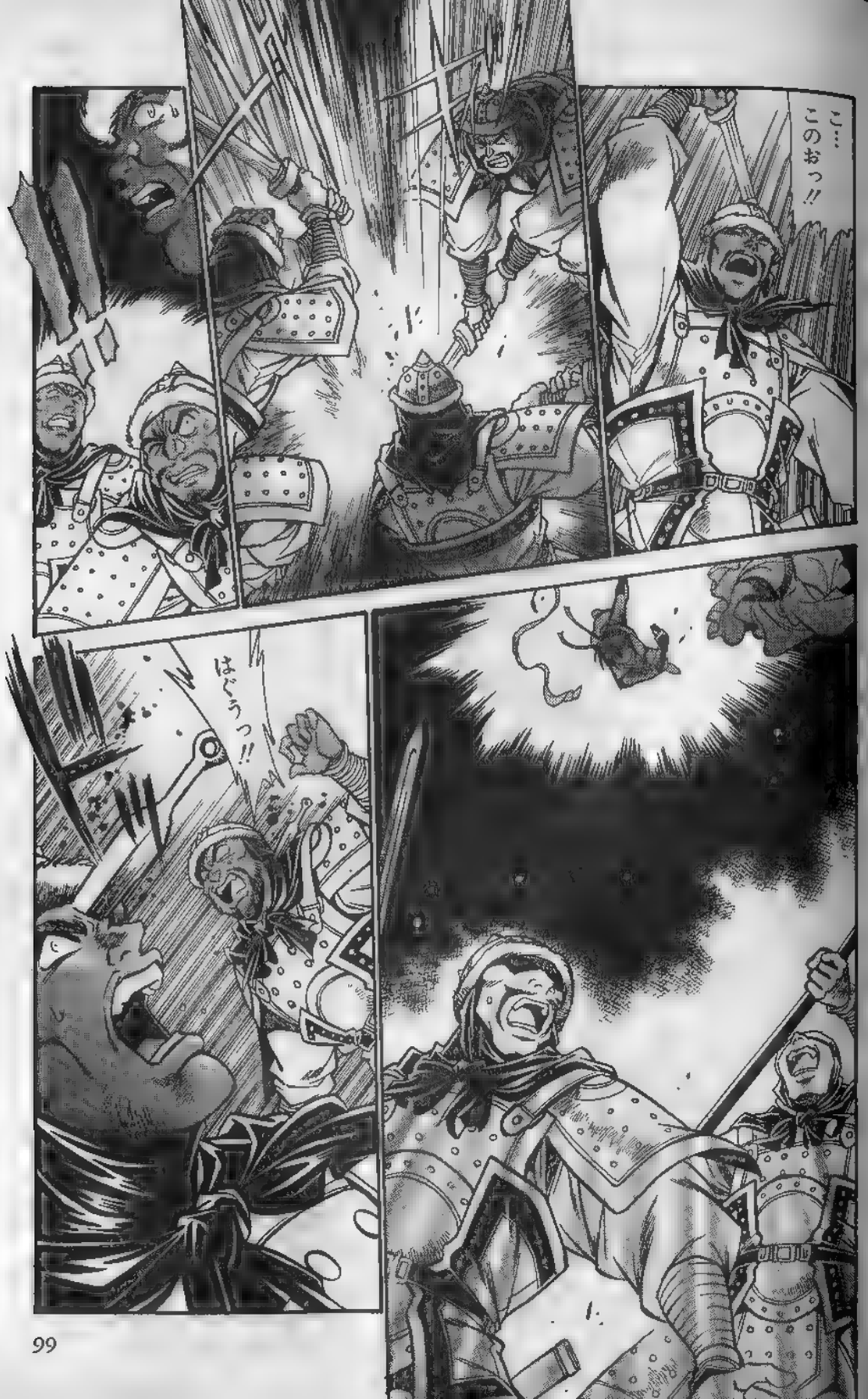
女共を
捕らえよ!!
竜王の妻子を
捕らえるのだ!!
男は
皆殺しだ!!

わーっ!!
わーっ!!
うわっ!!
死ねえ!!
ひえええっ!?

お急ぎになって!!
梨扇殿!!
ここは私が防ぎます!!
梨扇!!
無理しないで!!
あなた一人でなんて…!!
……
奥方様…
私はあの人…竜王様からあなた様をお守りするよういい付かっております…!

さあ早く!!
梨扇…
さあ…奥方様…!
私はそれに応えなくてはいけません!!
ええいっ女一人に何をやっておるか!!
奥に逃げるのが竜王の妻に違いない!!かかれ!!

これを…
いただけるんですか？
竜王様…
俺は
こーいう
キンキラ物は
よくわからんが
気に入って
くれりゃあな


こ…
このおっ!!
はぐうっ!!

忍びか!?
俺が付けてやろよ
やつは女は忍び共束より特だぜ

まだか!!
まだ奥方と跡継ぎは見つからんのか!!
はっ城の大半を落としたのでございますが…

ご安心なされ秦宮括様
それがしに援らかの兵を与えてくだされ
城中のことはよく心得ております
おおっそうか…助かる!
弟・荘架に兵二百を付けてそなたに与えよう!
必ずや無傷で俺の前に引き連れてくるのだ!
はっ!

きゃ――っ!!
ふん…
ただの女共か…!
おいっ
女!!
ひっ!!
ゲシッ
竜王の妻子が
どこへ行ったのか
いえ!!
そ…
存じません!!
本当です!!
ええいっ!
きさまは
どうだ!?
ん?

ほほう…
これは
これは
華玉殿
奇遇ですな
このような所で
お会いできるとは…!
公叔…!!
公叔!
この女…
俺は
見憶えが
あるぞ!!
うでしょうような…!
今は丞相府付きの
女官だが
あなた方
兄弟にとっては
父・西羌王秦馬公を
惑わした男の
右腕…!!
その玄偉の役を
今度は
あなたが買って
でたというわけ?
あうっ!!

……!!
この女狐めが……!!
こやつを兄上の許に連れて行け!!
公叔……!!
あなたは破滅よ……!!
ふん……! 何を世迷い言を……!!
玄偉が我々の仇ということを竜王も承知のはずだ!
その片腕である女を重用するとはそれこそ裏切りに等しい……!
左様! これが竜王の正体でござる

ゆあ
こちらへ!
お急ぎあれ!!
キャーッ

こっちに何があるんや三楽斎!!
城には大抵抜け道の一つや二つはあるもんです
地下牢の奥から裏山に抜けることができます!
ご安心を…!!
!!

ご…ご無事でございますかぁ!!
あたた…
うちと梵天丸は無事や…
あたしも~~~
紫紋様…!!
紫紋様はっ!!
奥方様――っ!!
紫紋様ー!っ!!
紫紋どこや――っ!!

紫紋!!
しっかりするんや紫紋!!
お…奥方様!!!
お気をしっかり…!!
あ…たしは…大丈夫です…
心配しな…いで…
おおっ!!
いたぞ!あそこだ!!

わわわっ
あ…あかん!!
くそう…!!
ぐわっ!!
間に合ったようだな…!!
孟闇殿!
孟闇!!
孟闇様ーっ!!
行けいっ!!
ここは俺が守る!!
しかし…その傷では…!!
以前にもいったな!
三楽斎!!
「二度と主君を変えるな」と…!!
おまえは生き抜いて竜王様に一生お任えせいっ!!
闇魔大王の宰相って柄じゃねえだろうが!!!
孟闇殿…!!

行けいっ!!
走れ!!!
さあ
てめえらっ!!
ここから先は
一歩も通さんぞ!!
さあ…
ここから
中へ…!!
何しとんのや
三楽斎
ここを
爆破します!
これで
追手を完全に
防げましょう
それじゃ
孟陽様はーっ!?
……
拙者と大将軍は
互いの仕事を
全うするのみです…!!

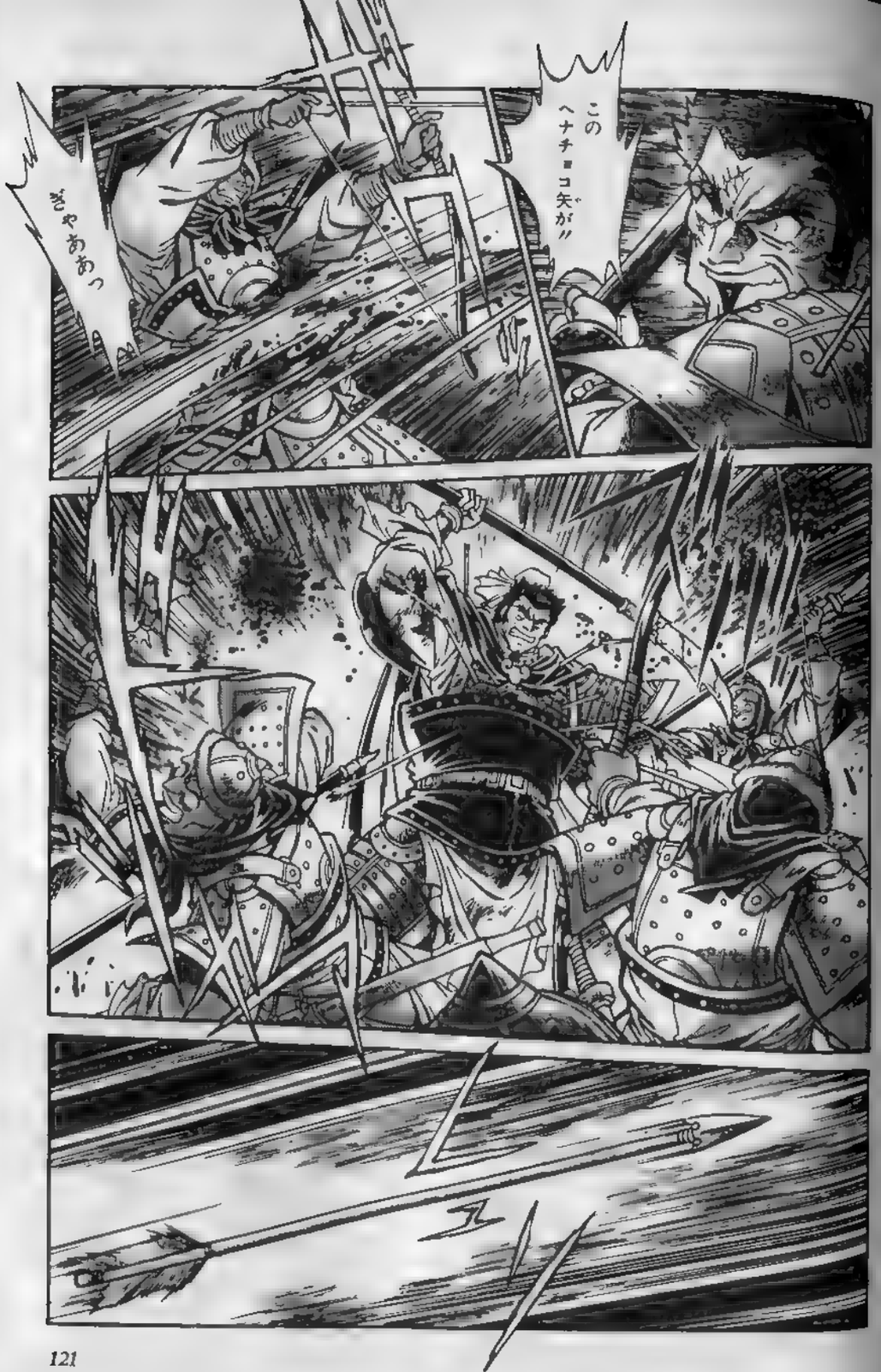
急ぎますぞ！
暗いゆえ
足許に
ご注意を……!!

ぬんっ!!!
うおおっ!!

ん…っ!!
ふ…
ふふ…!
まだまだ〜っ!!
ひ…
何て奴だ…!
うわっ
来るぞ!!
うわあっ!!
ぎゃあっ!!
ええいっ
たかが一人に
何をてこずって
おる!!
遠巻きに
して
矢を射かけろ!!

公叔!!
ひっ!!

ぬおおおっ


ぎゃあああっ
このヘナチョコ矢が!!

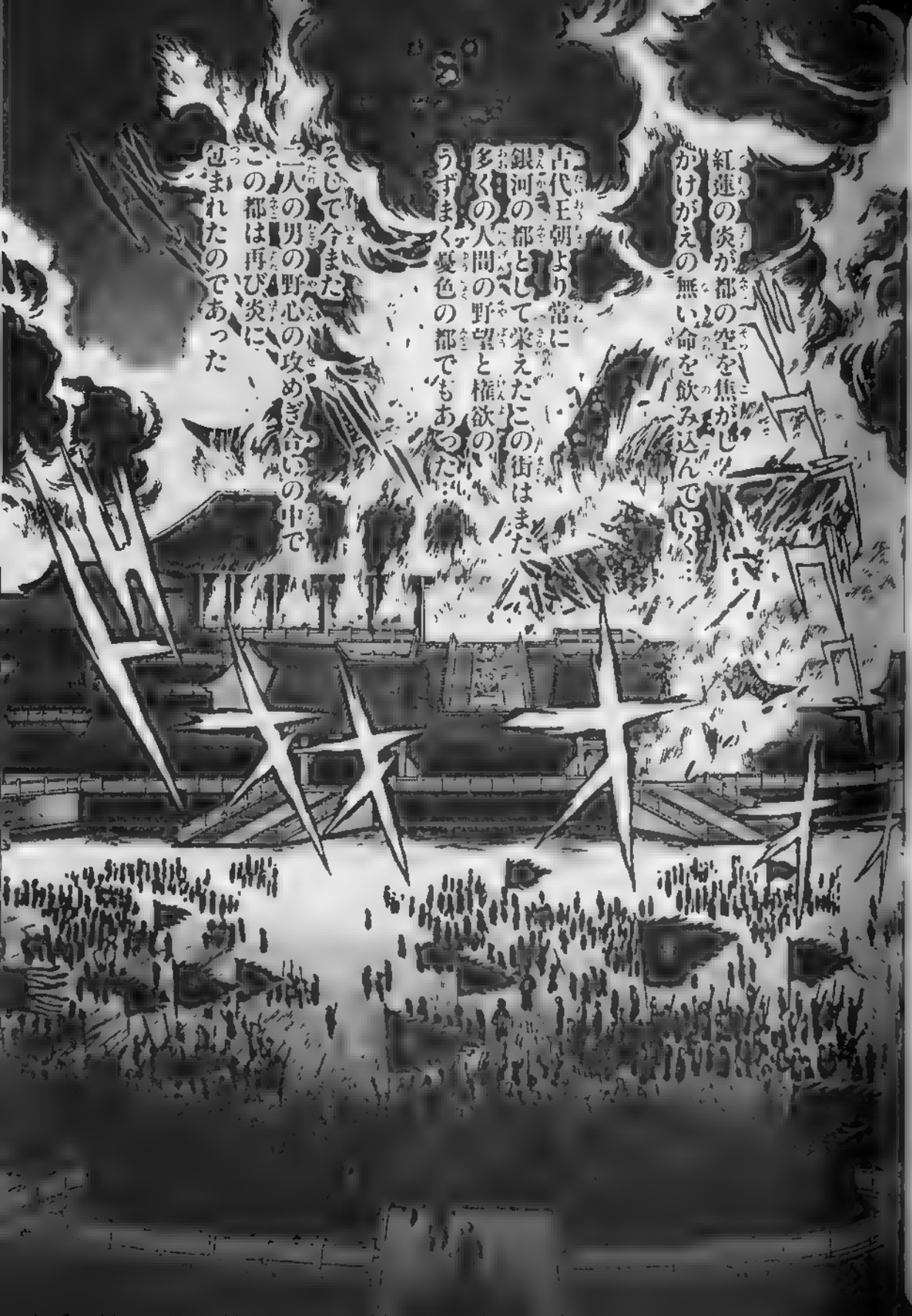
逃げるな!!
うて!!
うてーっ!!

待ていっ!!
射るのはやめい!!

おおっ!!
うわっ!!
公叔…
き…きさま…!
この死に損ないが…!!
俺一人じゃ
閻魔大王が
納得してくれなくてな…
一緒に
行こうや…!!

死んで
います…!!
立ち往生か…!
感心してる
場合では
ございませんぞ!!
時間を無駄に
した!!
さあ!
急ぐのだ!!
追って
竜王の妻を
捕らえよ!!

ガラガラガラ
あ
あ
あ
あぁ
ええいっ！
奴に止めを
刺せ!!
うおっ!!
!!


紅蓮の炎が都の空を焦がし
かけがえの無い命を飲み込んでいく…
古代王朝より常に
銀河の都として栄えたこの街はまた
多くの人間の野望と権欲の
うずまく憂色の都でもあった
そして今また
一人の男の野心の攻めぎ合いの中で
この都は再び炎に
包まれたのであった

ゴオオオオ

凶星が
北の空に流れた…
よくない
報せが
届く…！
丞相！
斉王都よりの
急使が
参っております!!
ふ――…
雷
起きているか？
師真か？
入れよ
こんな
夜更けに
酒か？
おまえ
らしくない
付き合え
なぜか
寝付けんのだ
ああ
それとどこからか
いい酒を
持ってきて
くれないか
今夜の酒は
えらく
不味い…!!

都より悪い報せだ…！
秦宮括が寝返った…！
何っ!?
宮括が？西兆がか!?
三楽斎より急を知らせる書状だ
状況はかなり悪い！
「公叔の手引きにより西兆はすでに都を窺う地まで達する由に候…」
「まことに国家存亡危急になり…！」

秦宮括よ…！
やはりおまえはこういう形でしか輝けぬのか…!!
……！
心配するな俺が一軍を率いて斉王都を救いに行こう
いや…
秦宮括が覇者としての命を全うする気なら俺が出向かねばならんだろう…!!
師真！
目立たぬように諸将を集めろ!!
……

何と!?
秦宮括が謀反!!
都が危ないのでございますか!!
そうだ!
西羌は南天と手を結び三百万の大軍にてすでに五丈中枢に迫りつつある!
都を守るのはわずか十万の兵だ孟闕とて如何ともしがたい兵力差だ!

やいやい公旦!!
こりゃどーいうことだ!?
味方面しやがって人の留守を狙うたあこのクソ泥棒猫め!
踏ん縛ってやる!!
おやめください項武将軍!

林軍師!
何でこんな奴をかばう!?
裏切り者なんだぜ西羌は!側に置いておけるかよ!!
公旦殿は与り知らぬことです!

そんなことわかるかい!背中を刺されてからじゃ遅えんだぞ!!
ええ確かに西羌より内応せよとの使者は来ました!!
しかし公旦将軍は…

皆の者！
竜王様はこの世から戦を無くすための戦をしてるのだ！
もう二度と家を焼かれ民・百姓が難儀せぬ国をお造りになろうとしていらっしゃる
それは我が西光の望みでもあり天の声でもある！
なのに今母上や兄上がなさろうとしていることは戦を増やすだけの戦だ!!
一時の富貴に目がくらんだ行いは天に逆らい唾を吐きかけるもの！
わたしは例え母上の命であっても自分の信念は曲げぬ!!
公旦殿……

公旦殿は私心を捨て天下国家のため尽くそうとしているのです！
身内の情より正義を貫いた公旦殿こそ真の丈夫であり裏切り者などとんでもございません！
……
みんな公旦殿はその母君の書状をすでに一月前に俺に手渡している
疑ってはならん！
御信頼感謝いたします竜王様…！
しかし解せませぬ！一月も前にわかっていながらなぜ…!?
そうです！なぜ全軍でなくても一部でも兵力を割いて五丈本土防衛に回さなかったのでしょうか!?
そうですぜ！俺なら一個軍団でも充分だ!!

孟閣が討ち死に!?
斉王都が
落ちたというのか!?
はっ
申し訳
ございません…!
洋上兵力
城兵とも
彼我の兵力差は
如何ともしがたく…
何を置いても
竜王様に
お報せするのが
第一であると…!
父上…!!
くっ…!
くくく…!!

未だ南天は
不安定だ
多くの諸部族は
我々になびいたが
まだ俺と羅候の
力関係を
見定めている輩は
多い
その中で
一部とはいえ
軍の撤収は
西羌の動きと合わせ
態度を決めかねている
連中に影響しよう
人は噂を
自分の都合のいい方に
解釈するものだ
一個軍団とはいえ
項武のような
剛の者が率いて
急行するのを見て
そのような輩は
どう考える?
故に
師真と謀り
ギリギリまで
捨て置くことに
したのだ
戦乱は容赦なく
友を敵に変える…
なのに俺は
一縷の望みに
期待してしまった…
秦宮括に
公旦殿と
同じような期待を
持った
俺の甘さが
一番原因だ…!!
申し上げます!!

泣くな!!
孟閣がここにいれば怒鳴りつけられるぞ!!
くっ!!
そうだ! 泣いてる場合じゃねぇ!!
宮括の野郎 許せねえぞ!!
仇討ちだ!!
静まれ!!
おまえ達の気持ちはわかるが…
ここは俺が金剛一隻でもどる!
な… 一隻…!?
そりゃいくらなんでも無茶です!!
我々もお供いたします! 西羌軍三百万の火中に陛下を一人行かせるわけには参りません!!
大局を見失うな!!
我々の相手はあくまでもこの南天だ!
先もいったように軍団での移動は天下統一への大局をも失いかねん!

しかし…!!
兵は神速を尊ぶという!
やつらが五丈全土を制圧する前に叩かねばならん!
だが金剛の最高速度についてこれる船は他にはあるまい…!
陛下! なればわたし一人でもお供をお許しとう願います!
息子として父の仇を討たずしておめおめとここ南天で待つことなどできませぬ!
いいだろう! お供を許す
おまえにはその資格が充分ある
あ…ありがとうございます!!
陛下 わたしも参ります!
装白
金剛のことは設計者のわたしがビス一本まで知り尽くしております!
道中全速力を発揮するためにも乗船して万全を期したいと思います!!
うむ! 頼むぞ!!
俺だって資格があるぜ!!
うちの大将の露払いはおまえだと俺も親父にきつくいわれてるんだぜ!!
その大将自らの出陣で俺がついて行かねえでどうするんだ!!
ガバッ!!
今こそ秦宮括とのいつぞやの決着をつけてやる!!

その方
陛下と共に
五丈へ向かい
国境で下船し
近隣の守備隊を
集め再編し
金剛の後を追え！
陛下の後軍となり
お助けするのだ
はは――っ!!

残りの者は
普段と変わらぬように
振るまうのだ！
我々が微動だに
しなければ
西羌に呼応する
輩も慮して
動けまい
もちろん兵士には
もらしてはならぬ！
いらぬ波風は
立たせてはならん！
以前 狼刃元帥の
八百万の軍勢が
兵が動揺し
一夜で雲散霧消
したことを
忘れてはならない

いいだろう
西羌軍は
強大！
先手の大将を
まかすぞ!!
おうっ!!

お願いします!!
俺も
連れて行って
くだせいっ!!
項武！

まさか
今さら
留立は
しねえよな
……

師真
主だった者は
残しておく！
後は
まかせたぞ

はっ！
雲海将軍！

そこまで
竜王様の御決意が
固いならば
この師真
反対するすべが
ございませぬ

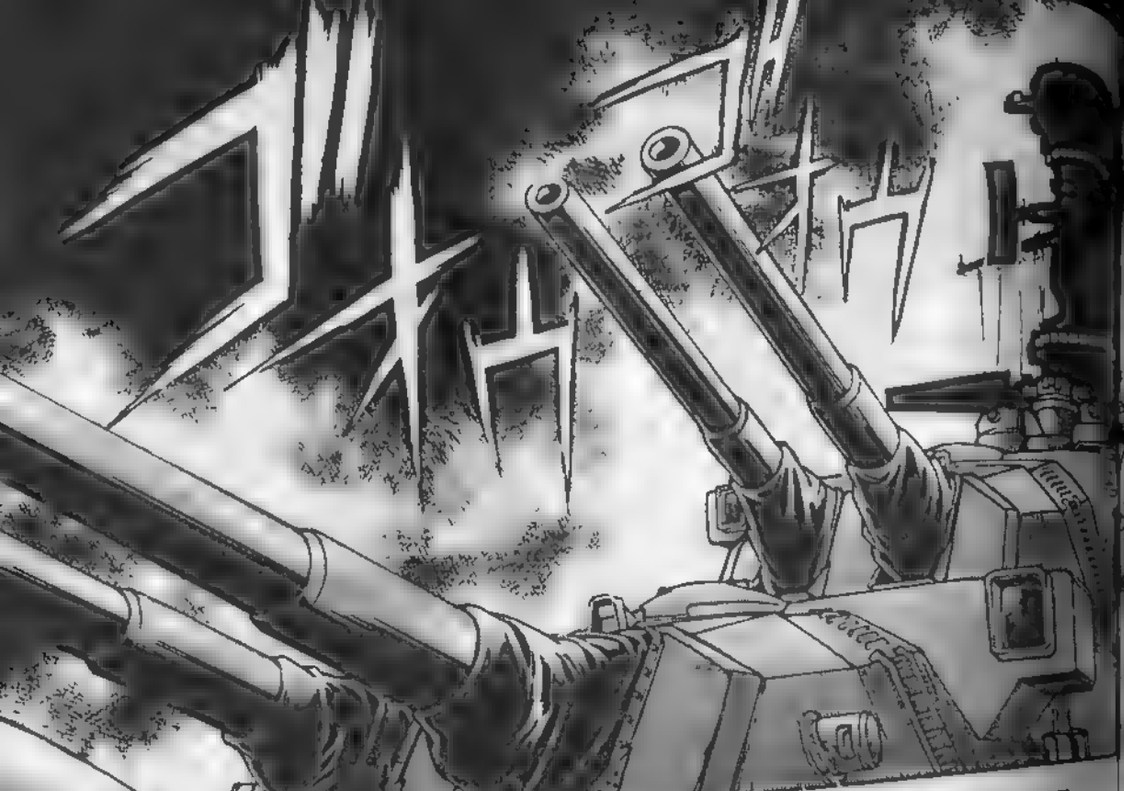
ひいっ!!
さあ いえ!!
竜王の妻と跡継ぎをどこに隠した!?
わたしは何も知らぬ下級役人でございます!!
ぞ…存じあげませぬ…!!

お許しを!
お許しをーっ!!
ガチガチ
兄上…!!
少々酒が過ぎますぞ
酒だ! 酒を持ってこい!!
鳥肌が立っておる…
兄上 何を怖れておりまする?
何いっ!!

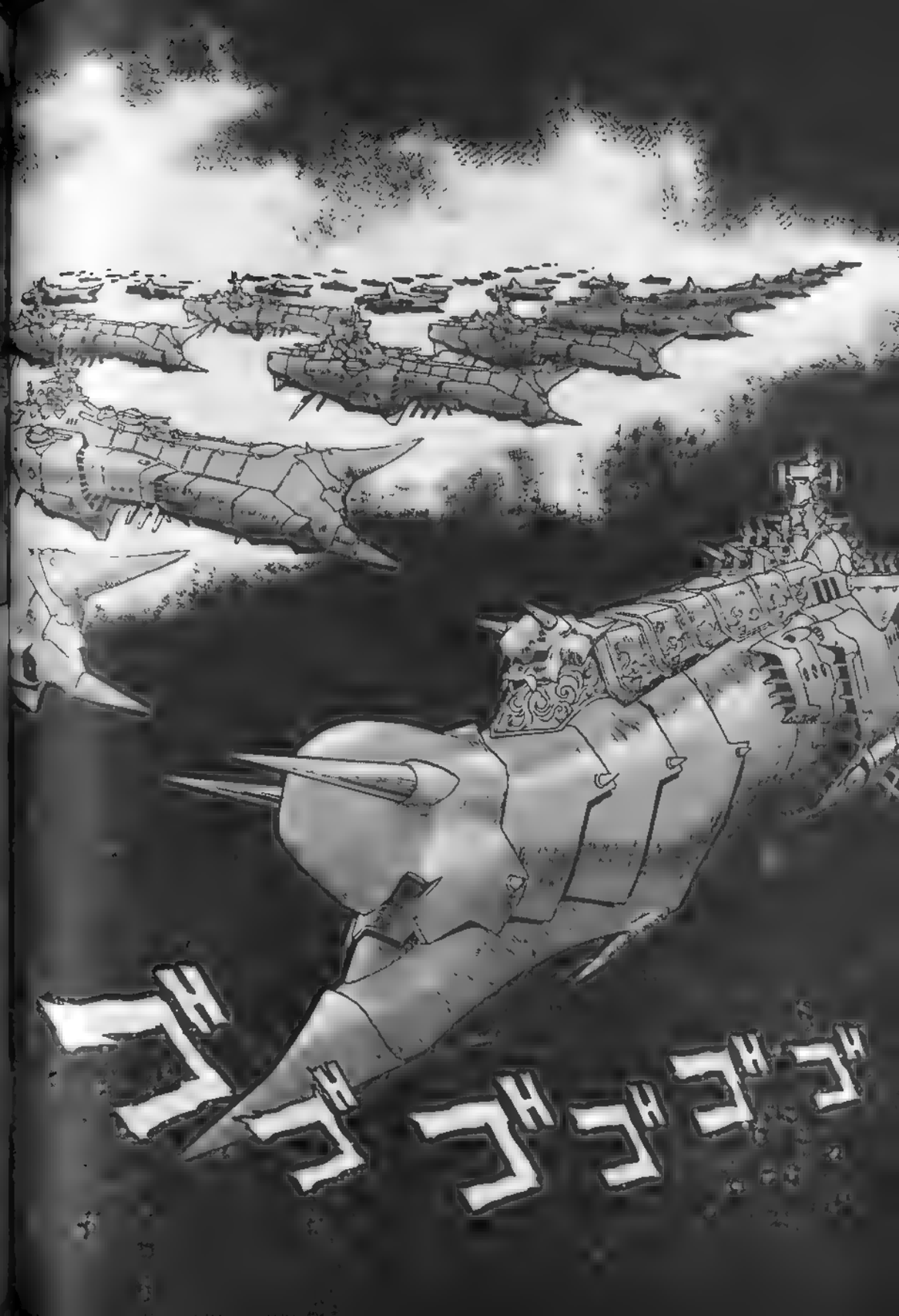
斉王都に入城して以来まるで死人のようだ…天下一の豪傑である兄上にとって竜王なんぞ目ではありますまい
そうだそうだ！五丈の腰抜け侍共に西羌武士の強者ぶりを見せつけてやりましょうぜ！
だが弟達の勇ましい言葉も秦宮括の震えを止めることはできなかった
勢いにまかせて城門に押し入ったものの…
自分の命で修羅地獄と化した宮廷内を見るにつれ背筋が凍るような恐怖に囚われた…
それは自分の背中に突き刺さる雷の冷たい怒りだった
それ以来酒を飲もうが何をしようが全身の震えを止めることはできなかった
それは動物が自分よりも強い者に対して示す本能的な怖れに近いものであったのだろう

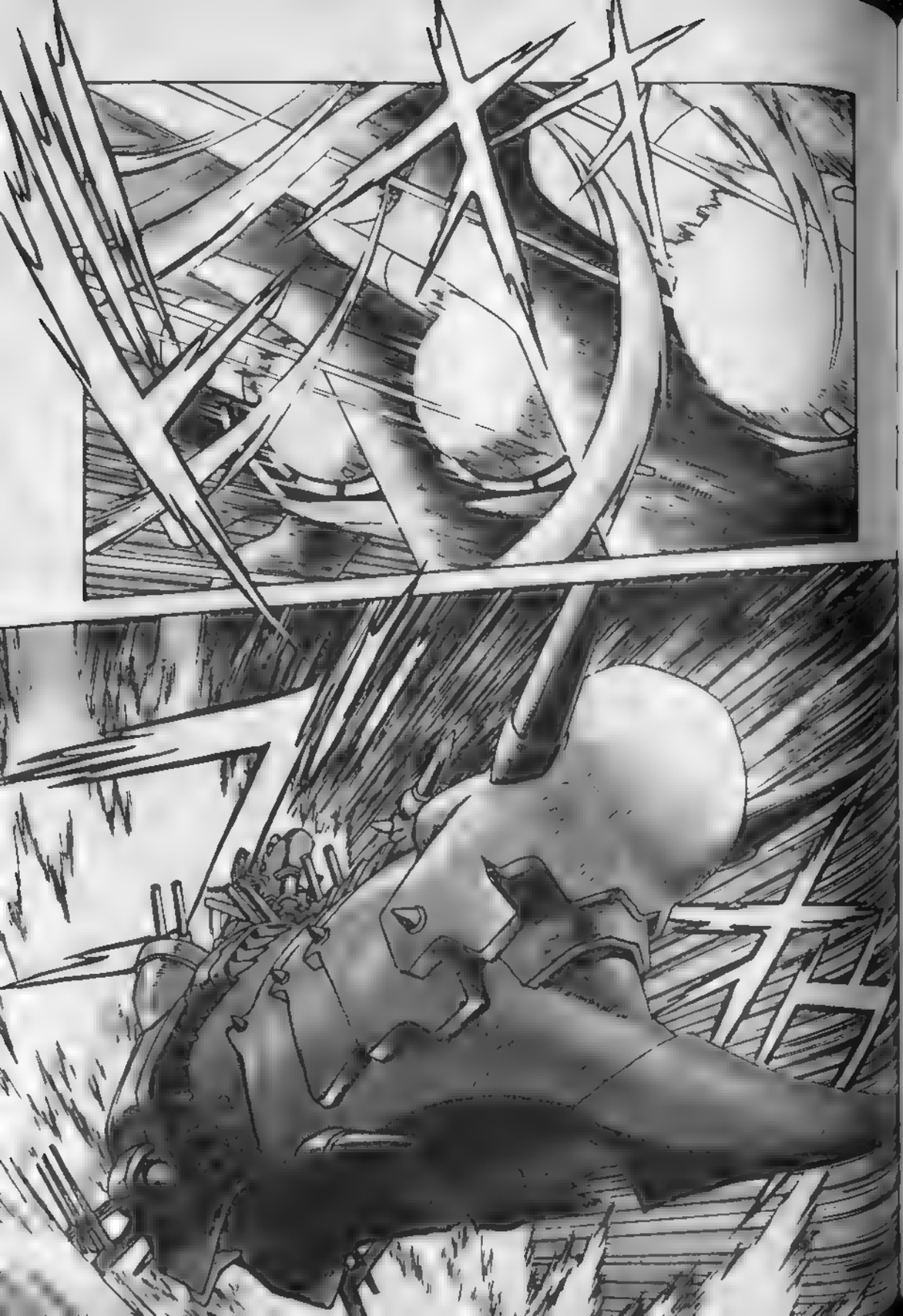
都の女官など
縁のない
連中でな！
せいぜい
かわいがって
もらえ！
ガタ

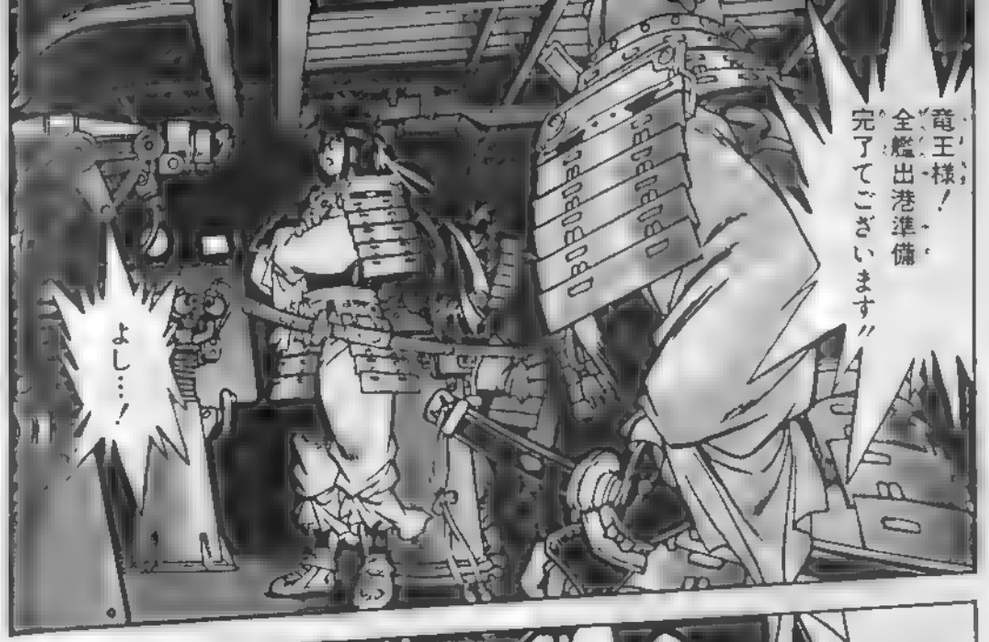
兄上！
この女を
覚えていますか！
!!
華玉…
あの玄偉の
腹心か…!!
……!!
こやつ
ぬけぬけと
竜王に仕えて
おりました
いかが
いたしますか!?
殺せ!!!
父を誑した
憎き女だ!!
殺してしまえ!!
聞いたか
女狐…！
だがただでは
殺さんぞ…!!
その罪
身体で
償ってもらうぞ！



出港三分前!!
総員配置につけ――っ!!
操舵手配備完了!!
缶圧上昇
伝導系異常なし!
全てよし!!






竜王様！
全艦出港準備
完了てございます!!
よし…！

行くぞ!!
地獄まで
ついて来い!!

はっ
どこまでも
お供しますぜ!!
半速前進!!

速度
第一戦速!!
回転上げます!!
第二戦速!!
第三戦速!!
第四戦速!!

大丈夫でしょうか…
たった一隻で
なんて…
一隻ではない…!
雷の存在自体が
一隻を
十個軍団に
することができる…!

機関一杯!!
第五戦速!!
最大戦速!!

斉王都を
むさぼりはらくした西光軍は
その勢いに乗じて
五丈余王の制圧に
取りかかった
最初の目標は
五丈の旧都である
武王都である

その武王都では
太守郷衆以下
余りの小態の
進展ぶりに
右往左往するのみであった

まさか
斉王都が
落ちるとは…
城兵は
孟閭将軍以下
皆殺しと聞く
その西羌軍
三百万が
武王都に向かっている
というではないか
ここには
老兵・幼兵が
わずかじゃ
とても抗えまい
太守様
残念でございますが
降伏より
手はございません
ううむ…
武王都太守鄭衆
太守
お待ちください！
降伏など
とんでもございません！
何じゃ
おまえは…
たかが
衛兵の分際で
わしに指示するのか!!

おしかりは
ごもっとも
後でいかほどでも
罰は受けましょう
しかし
降伏するのは
時機尚早で
ございます
ここ武王都は
ただの旧都では
ないことを
お忘れなく！
ただの
旧都では
ないじゃと？
はっ
いかにも…！
ここには
亡き弾正公
そして竜王様が
母とも慕われた
お聞きする
狼刃元帥の墓所が
ございます！
いわば
武王都は
〝聖地〟で
ございますぞ!!
しかも
ここで我々が
降ってしまっては
武王都以南を
放棄するに
等しいことで
ございます
それは
遠征中の
竜王様の軍勢の
帰路を断つことに
なりますぞ！

聖地を賊軍に荒らされ竜王様の帰路まで脅かしたとあっては例え生き存えても二度と竜王様に顔は合わせられませんぞ！

それはそうじゃが…

なればどうこの危機を乗り切るというのじゃ？

もう西羌軍の大軍はすぐそこにせまっておるのじゃぞ！

酒と女を送り届けるのです

酒と女じゃと？

聞けば西羌軍は斉王都を焼き尽くした故満足に酒を調達できなかったとか…

幸いここ武王都には名酒が酒蔵にあふれております

西羌は思わぬ勝利に驕っており我々が頭低うして美酒と美女を与えれば必ず気が緩みましょう

そちはどう思うか？

たしかに時間は稼げましょうが良くて十日でありましょう

遠征軍は引き帰すには少なくとも一月半はかかりとても間に合いません！

ふむう…

一月半か…

竜王様に軍師様共に頭の切れるお方…行軍に一月半もかかれば取り返しのつかなくなることくらいご存じのはず！

必ずや何らかの手段を講じましょうそうわたしは信じております！

そんなにかからないと思います

うむっよくぞ申した！

おぬしの冒険がなければわしは国家の大事を誤ったであろう立つがよい名は何という？

衛士の晏石と申します

そうか晏石よ武王都を守り切ればおぬしが第一の勲功じゃ

城下中の酒を集めい!!

ゴオオオ

いやうまい酒だ！
斉王都では兄者があんな状態でまともに酒も飲めなかったからうまさもひとしおだ！
この女共はそちらに与えるぞ好きにせい！
さあ酌でもしてもらおうか！

こうして西羌軍は上は秦荘架・横車の両兄弟から下は兵卒に至るまで思いがけない大勝利の美酒に酔い
連日連夜の祝宴となった
武王都太守鄭衆はここぞとばかりに武王都の蔵を空にするほどの接待攻めを続けた
二日・五日と際限なく続けられる祝宴に
将は酔いつぶれ軍の統率はままならず
陣形も大きく崩れ出した

はは っ
あんたが この前の戦で 手柄をたてたのは 知っている！
だが それだけで 師団長は つとまらねえ!!

陛下 どうか少し お休みください
かまわん おまえ達こそ 休んでおけ
しかし…！
……

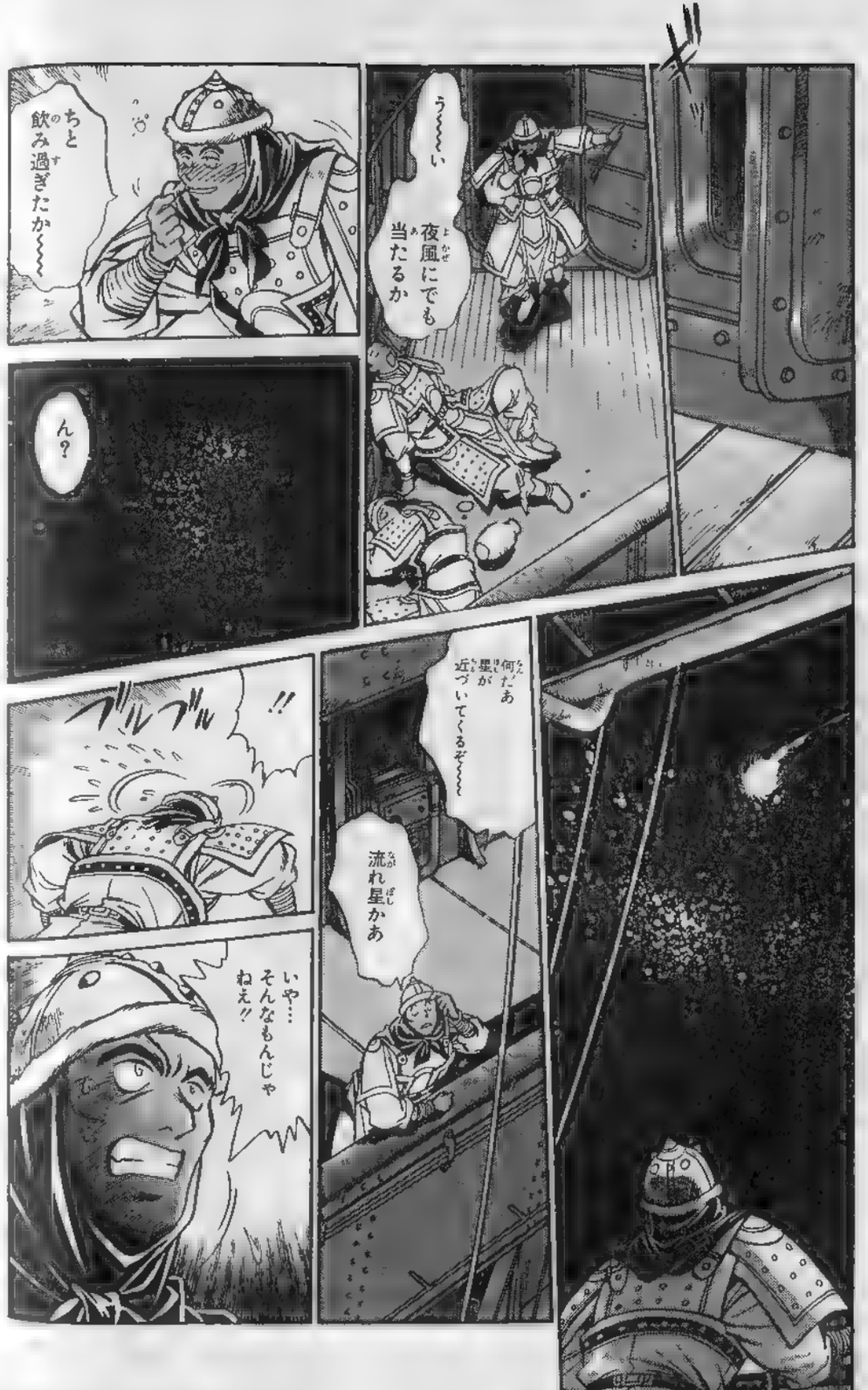
雷……
雷ッ!!
雷様
竜王様……
陛下!!

師団が勝利を
得るには
何人敵を
斬ったって
だめだ!
あんたには
まだそれが
わかってねえ!
戦いの結果なんか
どうでもいいんです
あんたがこの師団を
知ってくれりゃいい
孟閣……!!
わかりやした
舵はおまかせを!!
雷
生ある者は亡び
亡びて生をうけると
いいます
死んでいった者達の
御霊がまた
この世に生まれ変わる
時のためにも
将軍は事を
成さなければなりません!

ゴオオオ
ゴオオオ
皆も
散れぬか…
父上…！
必ずや
仇を討ちます!!
ゴオオオオ

兄者！
何だ横車よ
おまえもやらんか？

おいっ弟に盃を持ていっ!!
兄者！
もうここで祝宴を開いて十日になります ここらで切り上げ軍勢を整えましょう
何もそう急ぐことはなかろう弟よ
五丈軍はまだ帰っては来ぬわ！
我々が斉王都を襲う前に都の連中が竜王に知らせたとしても急ぎの伝令で二十日あまり…
竜王が慌てて軍を返してもさらに一月半かかるましてや我々に呼応する南天の連中の中での行軍だ！
それまでには五丈金土を制圧できる！
まずは兵士に休養を与えなくてはのう
あせるな！
はあ
そうでございますよ横車様！
ごゆるりとなされませ

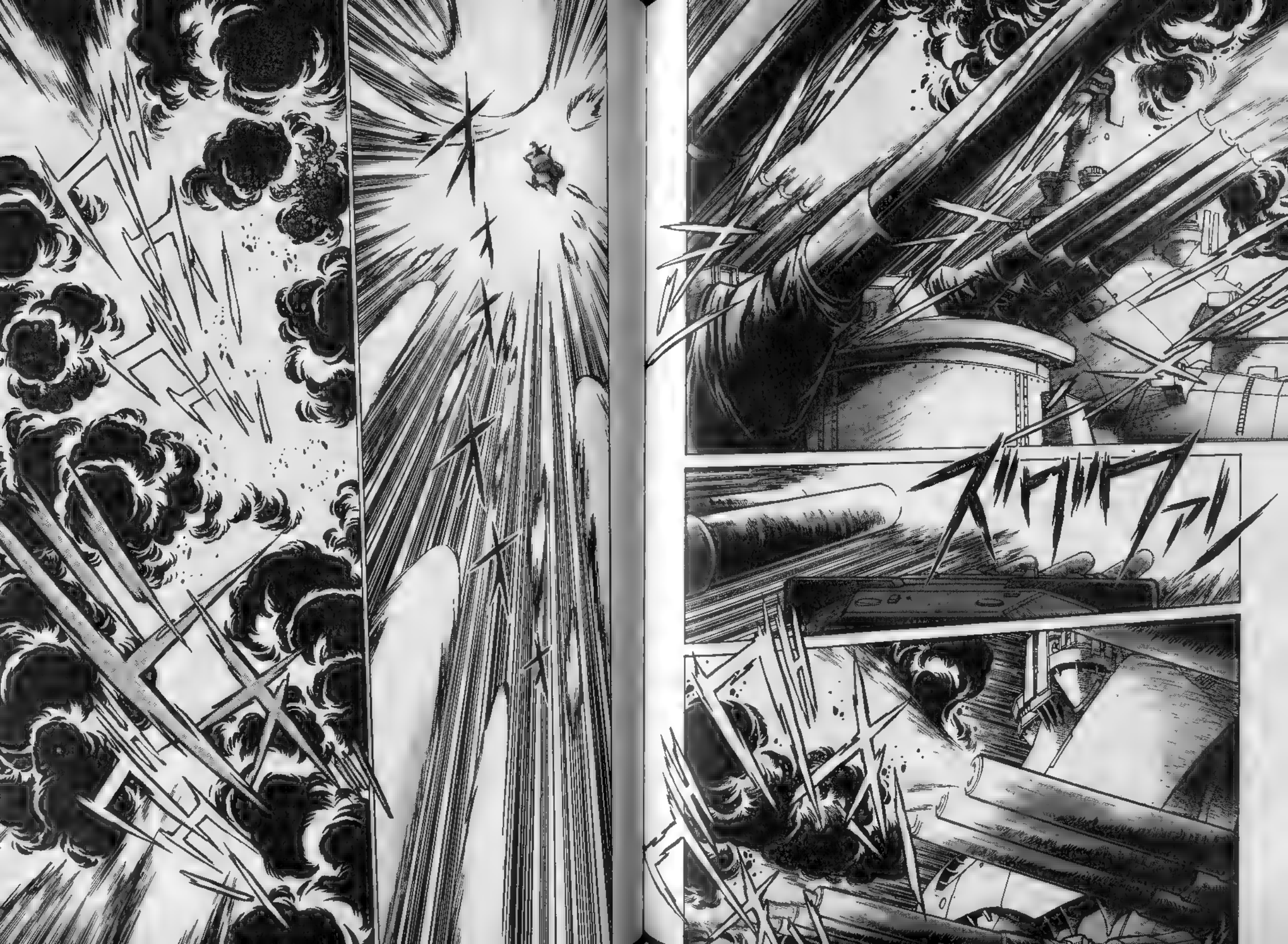

うぅぅぅい
夜風にでも
当たるか
ちと
飲み過ぎたかぁぁぁ
ん？
何だあ
星が
近づいてくるぞぉぉぉ
流れ星かあ
!!
ブルブル
いや…
そんなもんじゃ
ねえ!!

将軍――っ!!
一大事で
ございます!!
ぶっ!!
ええい
何だ
騒々しい!!
何か…!
何か
わかりませぬが
恐ろしい勢いで
近づいてくるものが…!!
近づいて
くるもの～～～？
ゴオォォ

戦艦です!!
真紅の
大型戦艦です!!
真紅の戦艦…!!
それは
五丈原の
旗艦の色…!!
全艦戦闘配備!!
何だ
何だあ?
ビィィィン
ビィィィン
うるせーぞ
何の警報だ!!
艦を廻せーっ!!

あ…あれ
アソコに…!!
確認しろ!!
急げ!!

どうした 機関室!! 出力を上げろ 半速前進!!
ええいっ どけいっ!!
いきなり無茶です! 缶の火が消えていて…!! 再点火しないと 圧が上がりません!!
ええいっ!!
各砲塔 応戦用意!!
乱れ撃ちで かまわん!!
撃ち方 はじめ――っ!!


スパワーアップ

艦首主砲…
ぶちかませ――っ!!

うわあああっ!!

父を討たれた娘と
討った男…

そして
一日でも早く
銀河を統一なさって…

戦国の世ならではの
悲劇の出会い故に
深く結ばれあった
男と女…

戦の無い
平和な世界…

それが
あなたと私が
お互い追い求めた
夢なのだから…

しかし
その二人の絆を
断ち切ったのもまた
戦国の世という
過酷な時代であった

わかった…

覇者としての
業の深さと
愛する者を失った
悲しみに
自問自答する
雷に
最大の危機が迫る

それが
俺には
くやしすぎるのだ！

銀河戦国群雄伝ライ 第24巻に続く!!

Dengeki Comics EX

銀河戦国群雄伝ライ㉓

2000年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館 電話03-5281-5214(編集)

発売元　株式会社角川書店　〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3 電話03-3238-8605(営業)

装丁　朝倉哲也+design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 2000

R本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！ 1999年10月号～2000年2月号(メディアワークス刊)

ISBN4-8402-1495-6 C0979